2013年度
常磐大学授業アンケート結果報告

―基礎学力習得のための学習支援の視点から―

2013.04.10 常磐大学FD委員会

常磐大学FD委員会　授業アンケートWG

授業アンケートの趣旨

- 2012年度常磐大学FDフォーラムの目的:
  - 「本学における基礎学力習得のための学習支援体制の共通理解を深め、教育の質的向上を図る」
  - テーマ③「読む力、書く力、伝える力、語る力、調べる力」に向けた取り組み

- 2013年度より、新科目「学びの技法Ⅰ・Ⅱ」始動

全学基本科目(2013～)を検討することで、
本学における基礎学力習得支援の現状を明かにする

分析対象

（1）全体的傾向の変化

- 2012年度全体：実習・ゼミナール系科目をのぞく全科目：回答者数1,901 登録者数 1,430
- 2013年度全体：全学基本科目および基盤スキル科目（研究法）（旧カリ）：回答者数1,442　登録者数1,613

（2）「学びの技法」導入による変化

-基盤スキル（研究法）：「学びと探求の方法」（2012年度人間・国際必修科目）受講者：回答者数394　登録者数687
-プレゼミ（コミ）：「問題解決法」（2012年度人間科学部ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科必修科目）受講者：回答者数60 登録者数69
-学びの技法Ⅰ：「学びの技法Ⅰ」（2013年度全学必修科目）受講者：回答数 506 登録者数565

（3）「情報処理」導入による変化

-2012年度：「情報処理Ⅰ」：回答者数460 登録者数492
-2013年度：「情報処理Ⅰ」：回答者数460 登録者数 514

（3）「情報処理」導入による変化

-2012年度「統計の基礎」：回答者数333 登録者数427
-2013年度「統計の基礎」：回答者数 381 登録者数410

分析方法

（1）全体的傾向の変化

① シラバスの理解:「シラバスと授業内容の対応」の変化 → ウェブシラバス導入の影響はあるか？
② 学生の姿勢1:「教員の話の聞き取り」の変化
③ 学生の姿勢2:「授業の予習・復習」の変化
④ 授業環境1:「教員の話の聞き取りやすさ」の変化
⑤ 授業環境2:「集中できる学習環境」の変化
⑥ 総合到達度1:「新しい知識、スキル、ものの見方」の変化
⑦ 総合到達度2:「授業の内容の理解」の変化
⑧ 総合到達度3:「総合満足度」の変化

（2）「学びの技法」導入による変化

① 学生の姿勢1:「教員の話の聞き取り」の変化
② 学生の姿勢2:「授業の予習・復習」の変化
③ 授業環境1:「教員の話の聞き取りやすさ」の変化
④ 授業環境2:「集中できる学習環境」の変化
⑤ 総合到達度1:「新しい知識、スキル、ものの見方」の変化
⑥ 総合到達度2:「授業の内容の理解」の変化
⑦ 総合到達度3:「総合満足度」の変化

（3）「情報処理」科目の変化

分析項目は、（2）と同様

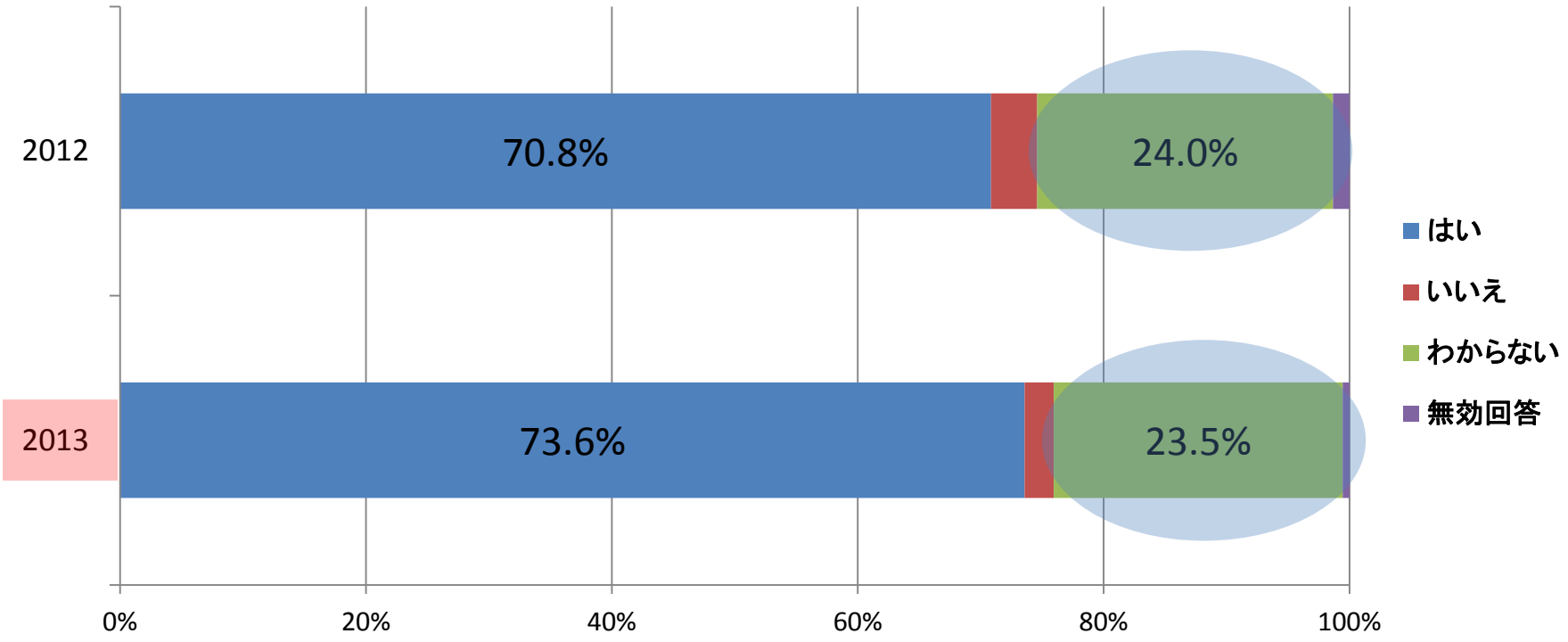
（4）「統計」科目の変化

分析項目は、（2）と同様

2013年度常磐大学授業アンケート結果報告（1）

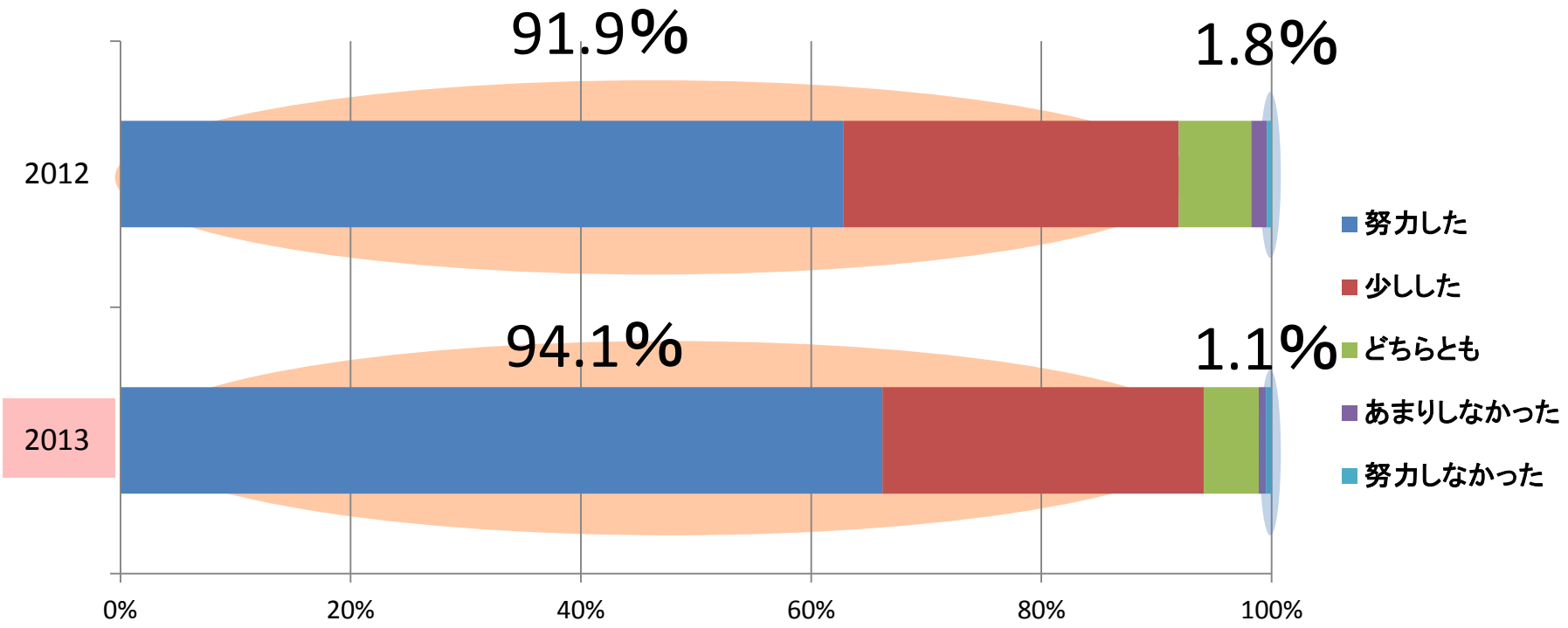
全体的傾向の変化

「全体の傾向」シラバス：シラバスと授業内容の対応



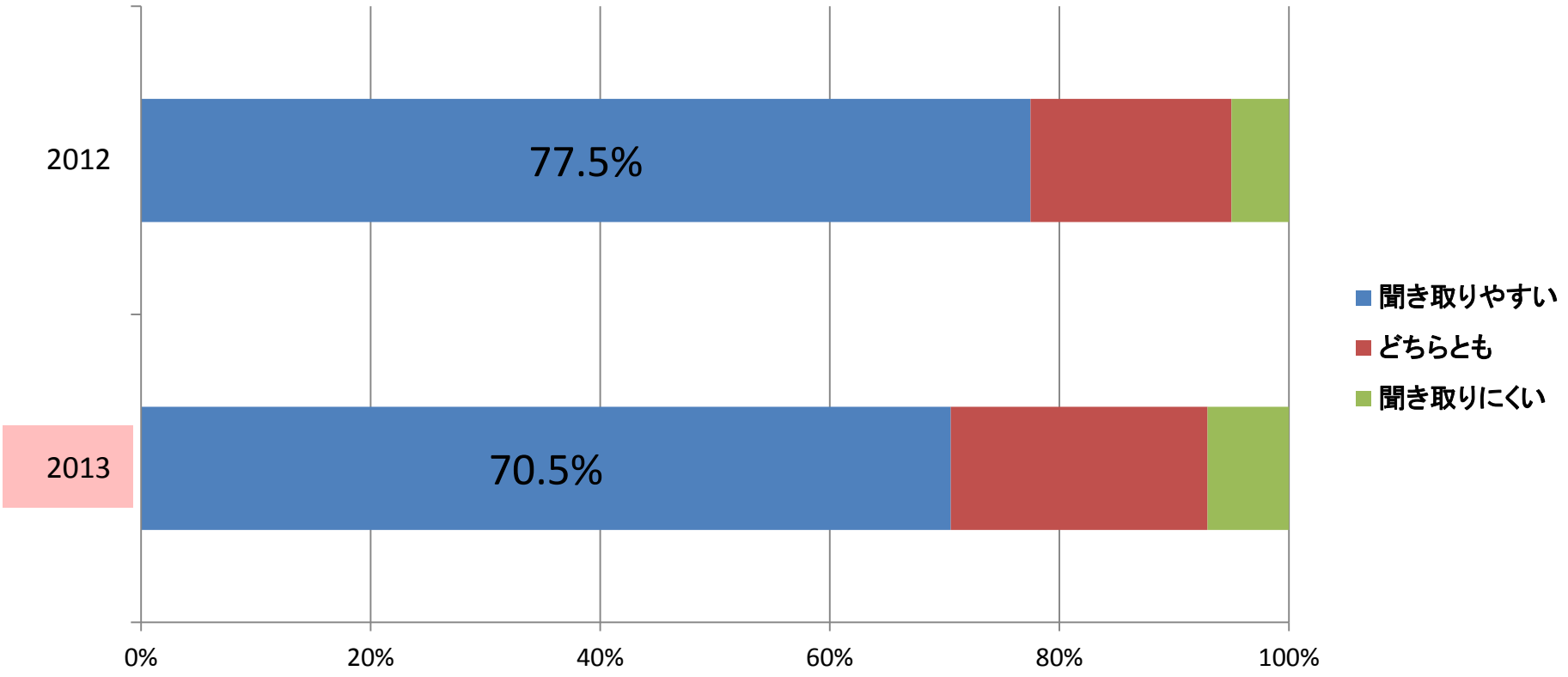
WEBシラバスの導入によるマイナス効果は見られない
シラバスと授業内容の対応度は向上

「全体の傾向」学生の姿勢①：教員の話の聞き取り



教員の話を聞き取ろうと努力する学生はもともと多い
2013年度はさらに聞き取る努力をする学生が増加

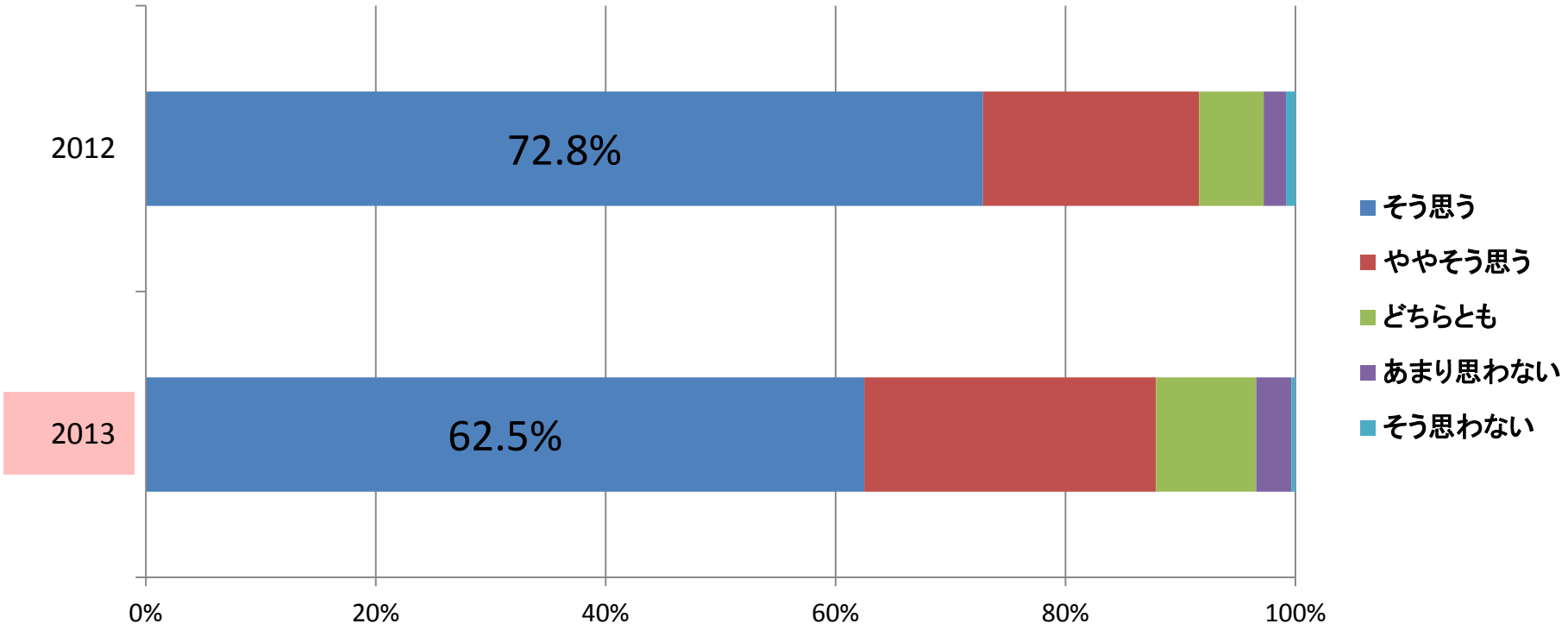
「全体の傾向」授業環境①：教員の話の聞き取りやすさ



一方、教員の話を「聞き取りやすい」とする学生は減少

理由に関するコメント（自由記述）の分析が必要

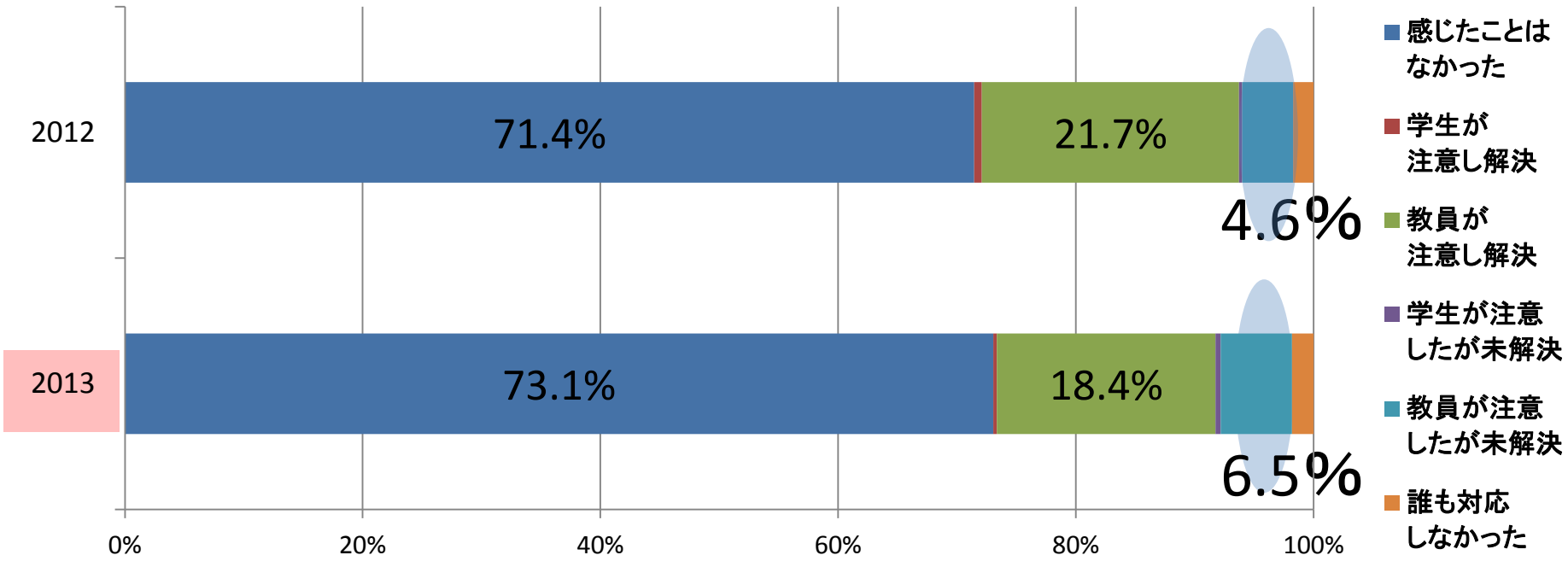
「全体の傾向」授業環境②：集中できる学習環境



集中できる授業環境が維持されているとする学生減少

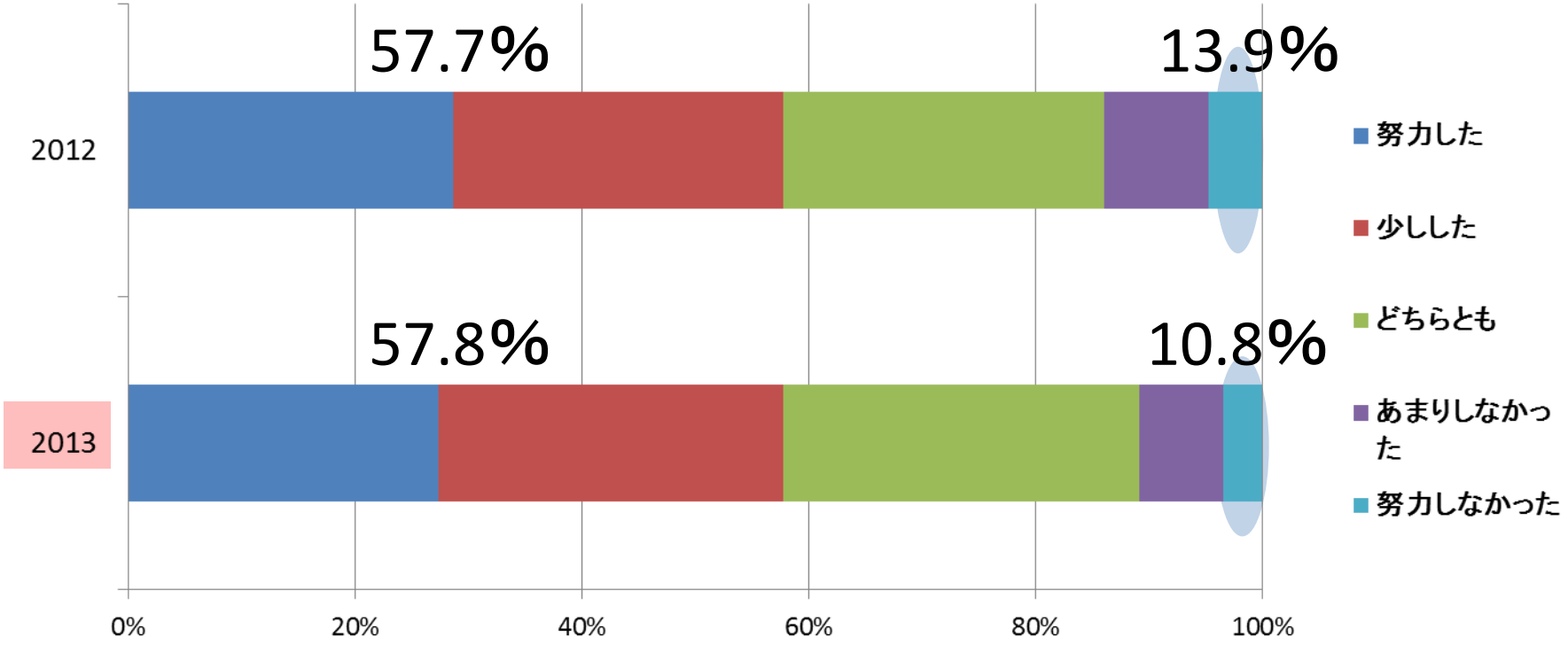
「そう思う」1割近く減少。「ややそう思う」を加えても減少

「全体の傾向」授業環境②：集中できる学習環境
―集中できる学習環境が維持されている/されていない理由



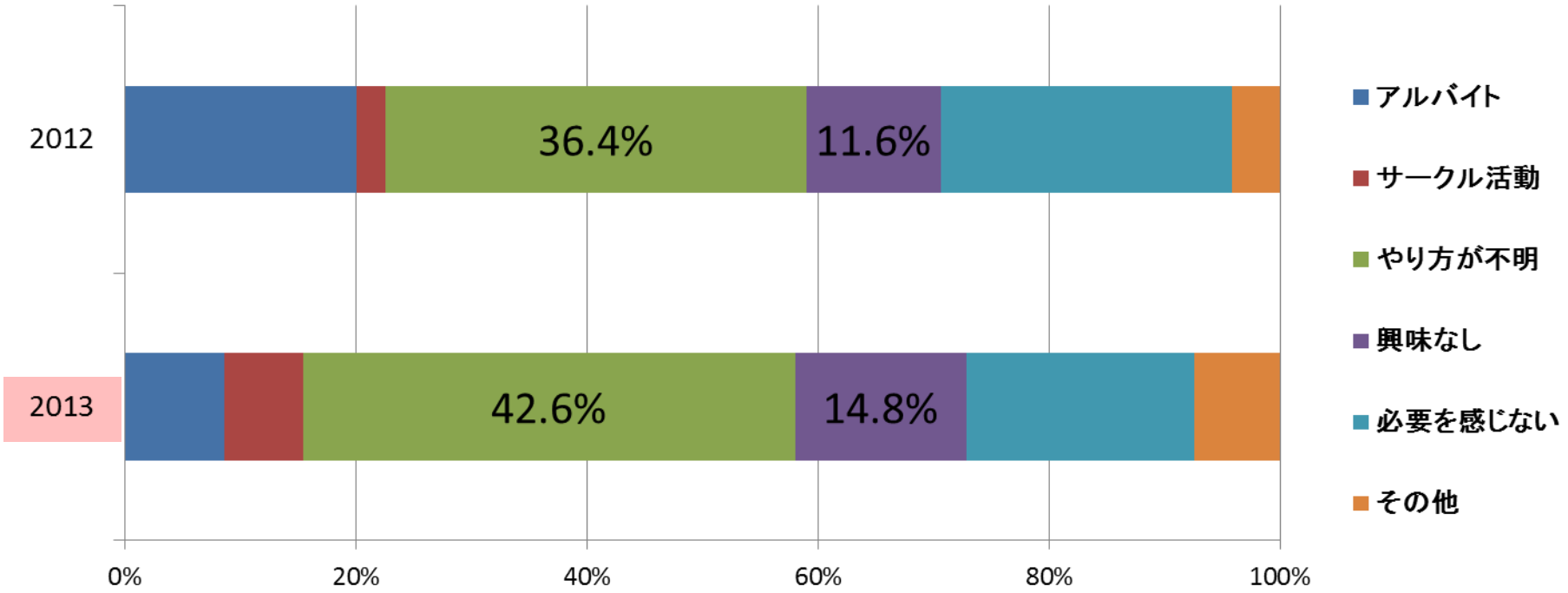
「感じたことはない」学生が増加する一方で、
教員・学生が注意しても解決しないという回答が増加

「全体の傾向」学生の姿勢③：授業の予習・復習



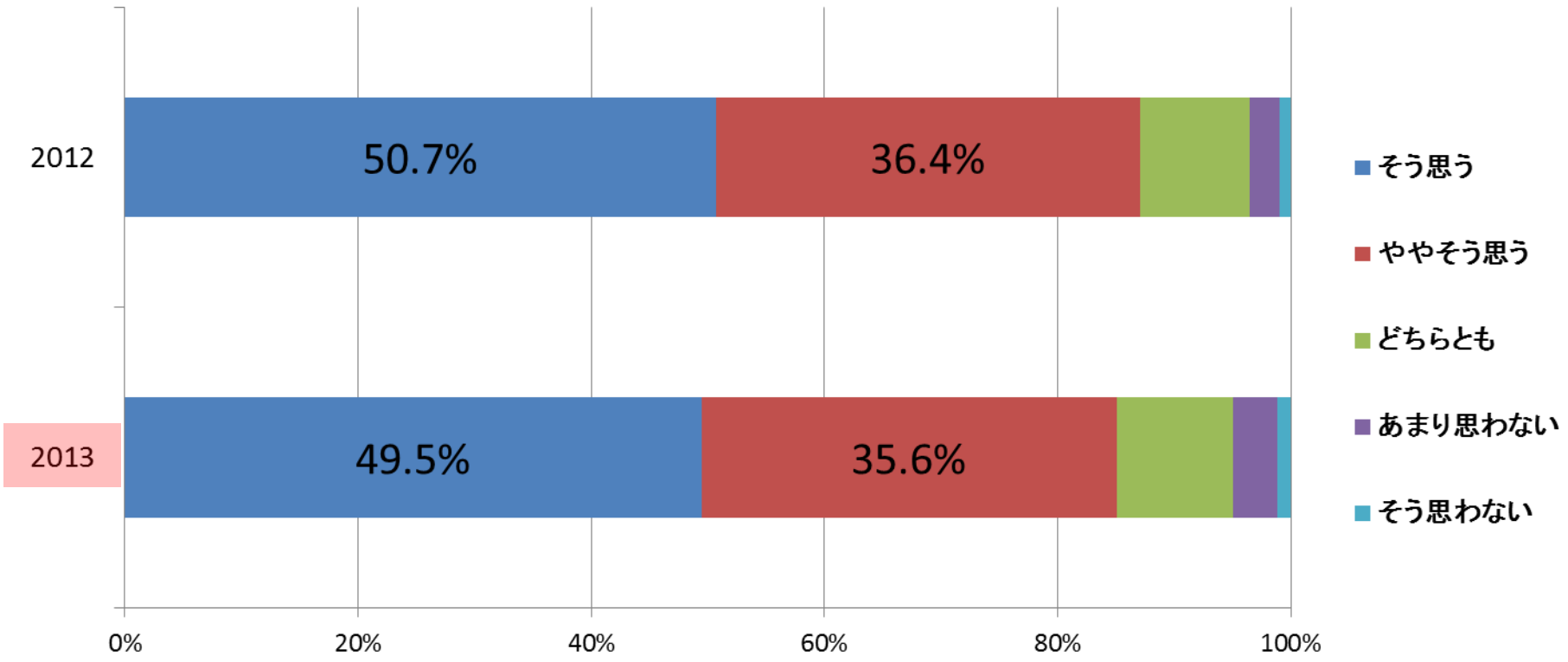
「努力した」学生の割合は変化なし
一方、「努力しなかった」学生の割合は減少

「全体の傾向」学生の姿勢③：授業の予習・復習
—「あまり努力しなかった」「努力しなかった」の内訳



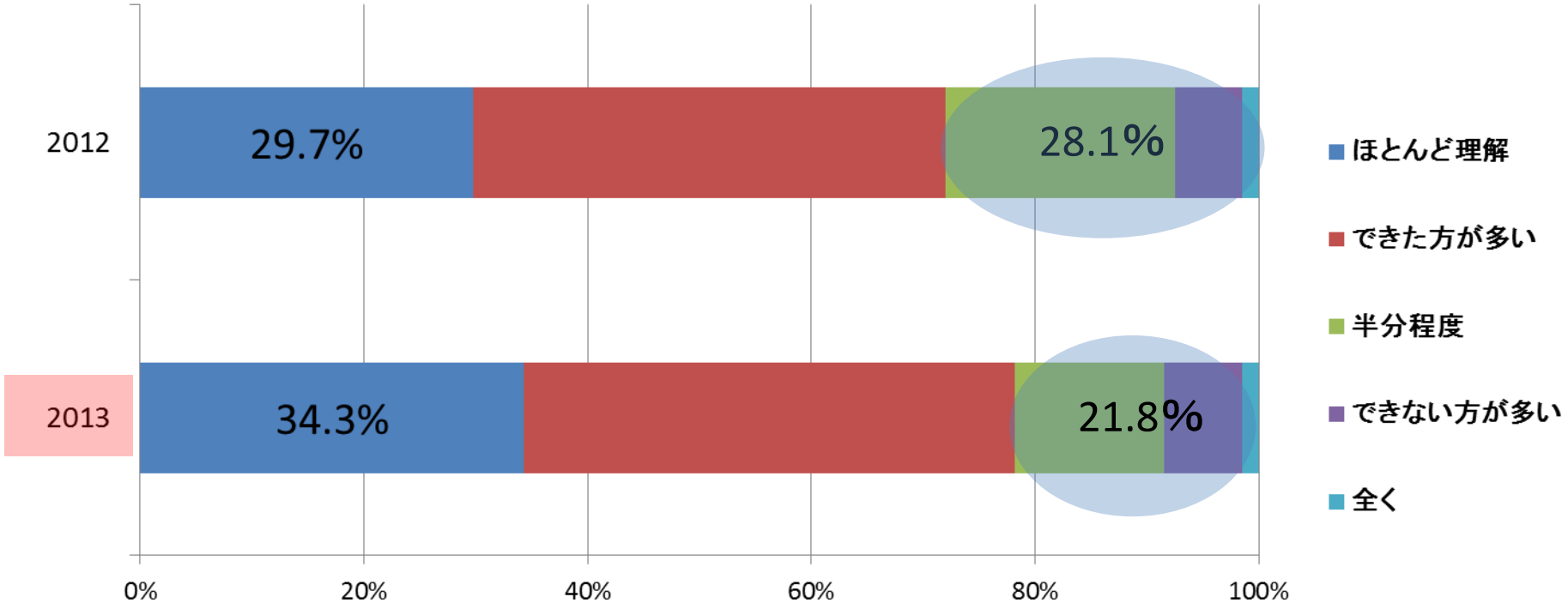
「アルバイト」「必要を感じない」が減少する一方、「サークル」「やり方が不明」「興味なし」が増加

「全体の傾向」到達度①：新しい知識、スキル、ものの見方



「新しい知識、スキル、ものの見方」について、
昨年度から大きな変化は見られない

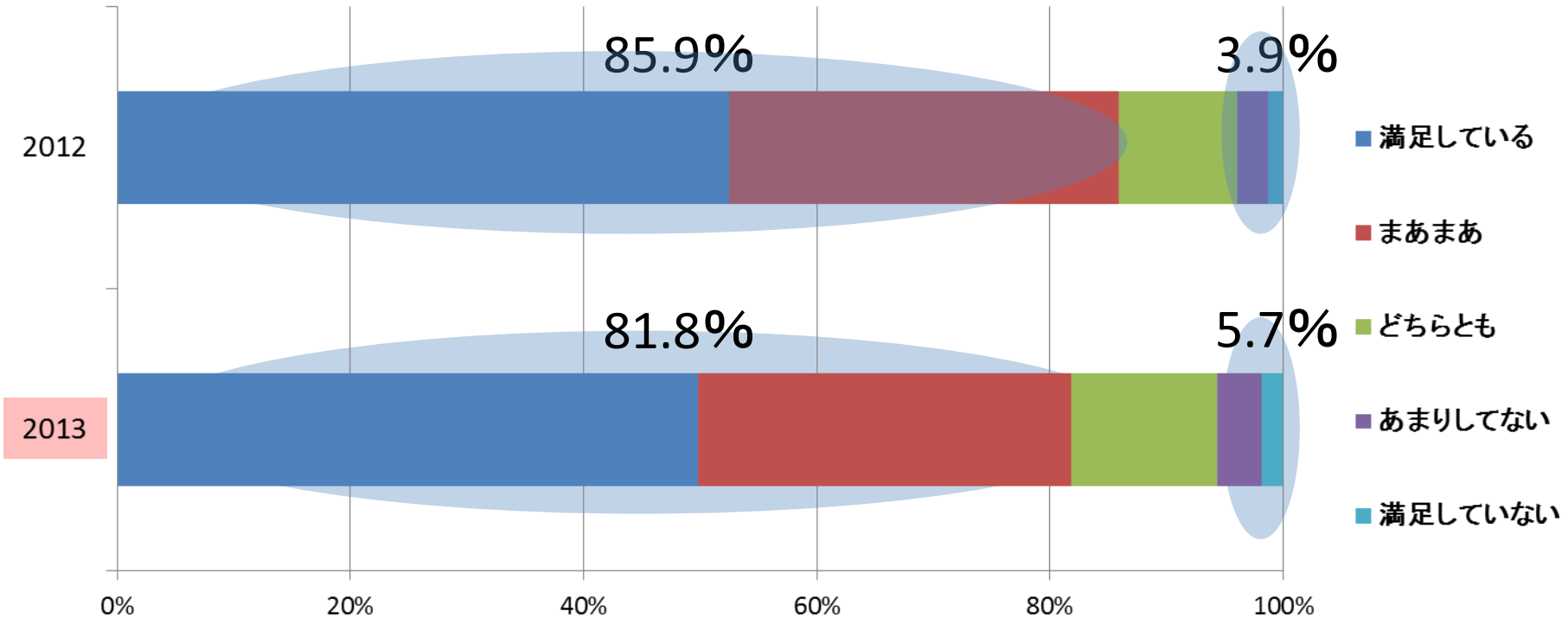
「全体の傾向」到達度②：授業の内容への理解



「ほとんど理解」の割合増加。理解できない学生減少

1/3の学生が「ほとんど理解」。1/5の学生が半分以下の理解

「全体の傾向」到達度③:総合満足度



「総合満足度」については昨年度より評価が低い傾向

アンケート対象科目が変化したことの影響？

2013年度授業アンケートの全体傾向

- 学生の授業に対する姿勢はわずかながら向上する傾向
  - 教員の話を聞き取ろうと努力する学生は増加
  - 予習・復習に取り組まない学生は減少

- 授業進行の妨げとなる学生の問題
  - 教員の話が聞き取りにくい、授業環境が維持されていないと感じる学生の割合が増加
  - 教員・学生が注意しても問題が解決しない事態が増加？
  - 「サークル」「興味なし」を理由に予習・復習をしない学生の増加

- 総合満足度の低下
  - 「新しい知識やスキルの獲得」に変化がなく、理解度は向上していることから、授業環境の問題に原因があると考えられる

2014年度における課題

- 学生の多様化が進む中で、集中できる授業環境をいかに維持するか？
  - 「サークル」「興味なし」を理由に授業の予習・復習をしない学生へのアプローチ
  - 教員の話が聞き取りやすい授業環境の維持
  - 学習活動に集中しやすい授業環境の維持
  - 教員・学習が注意しても解決しない場合の対応

↓

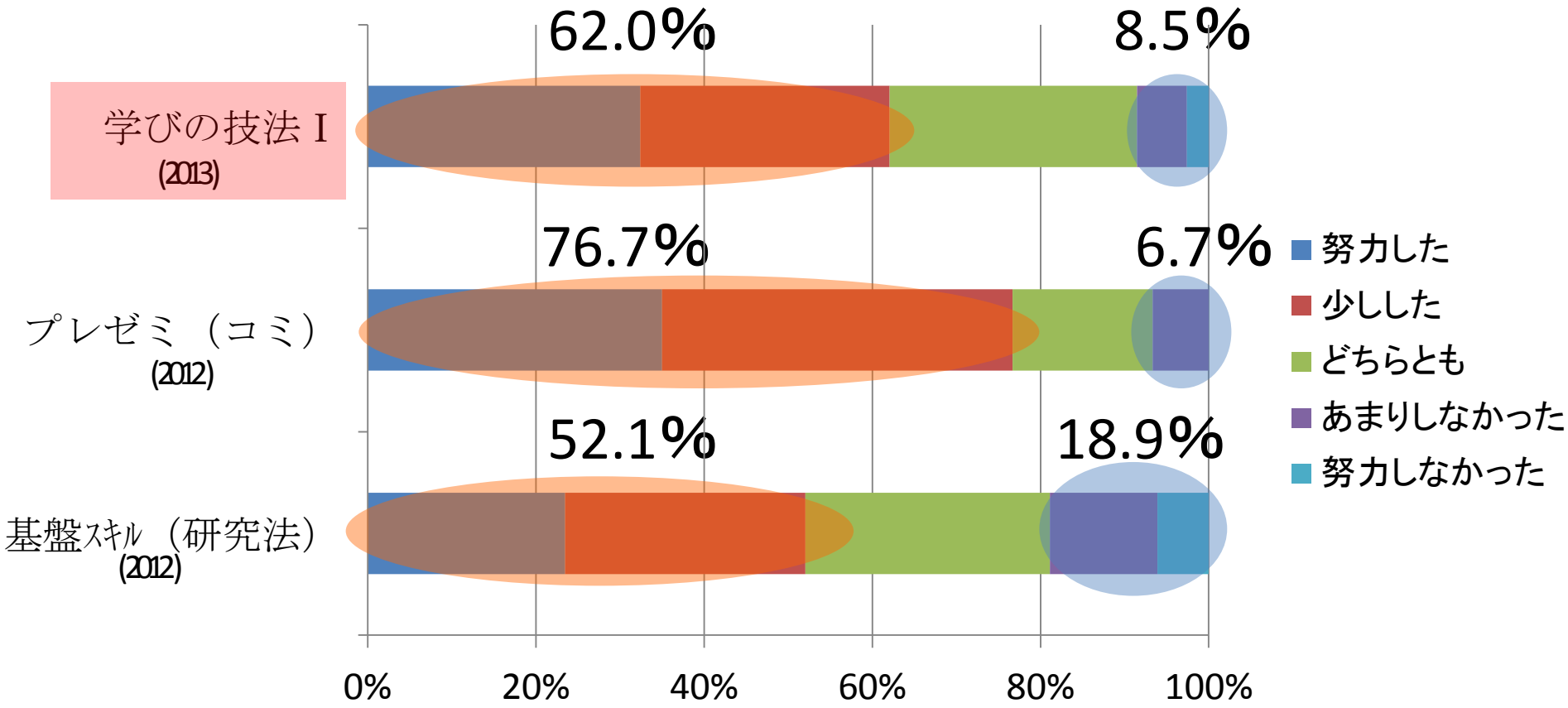
集中しやすい授業環境を維持するためのTIPS（コツやノウハウ）の共有

問題のある学生への対応の仕方についての“How do”の蓄積とマニュアル化

2013年度常磐大学授業アンケート結果報告（1）

「学びの技法」導入による変化

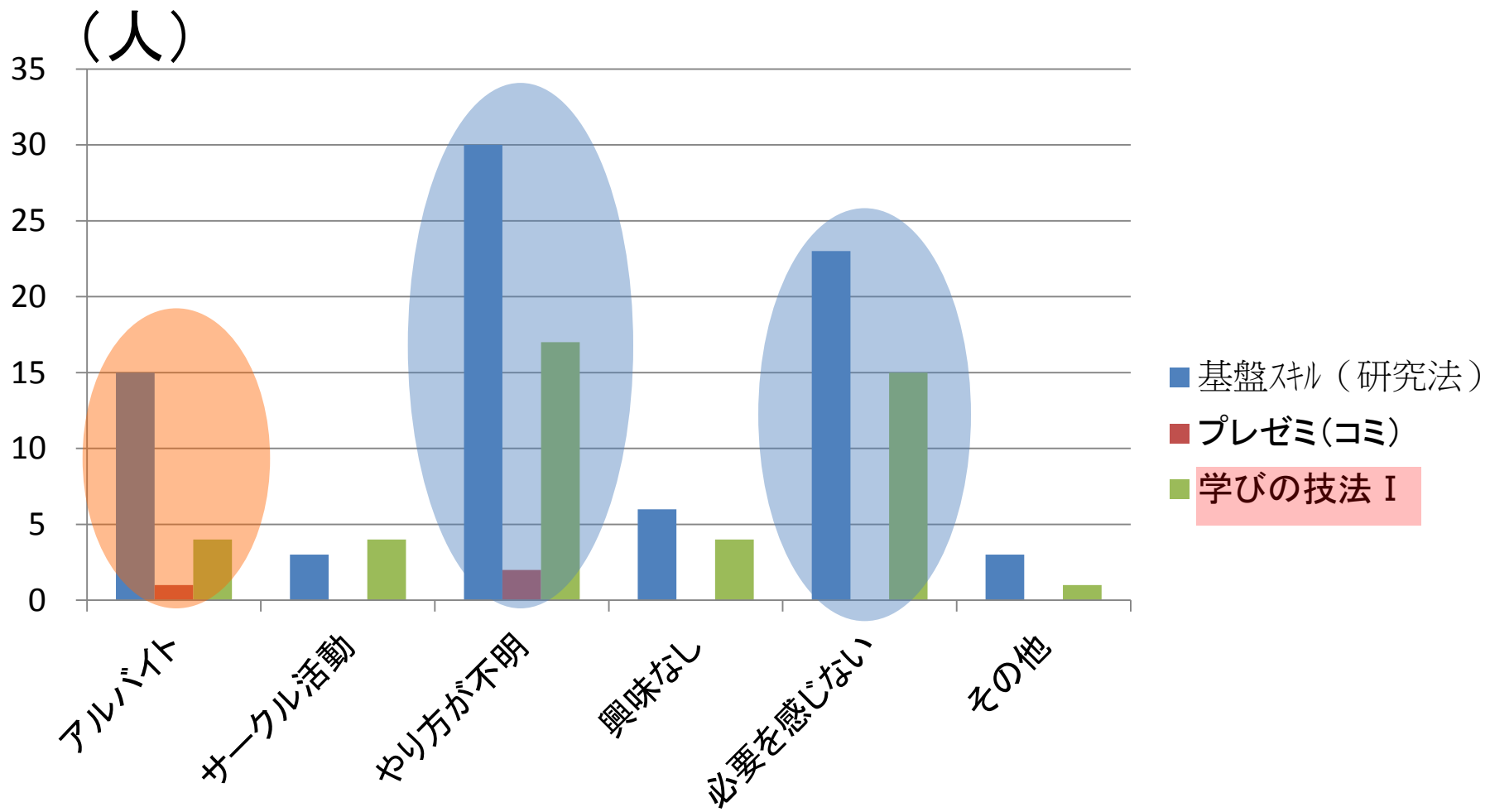
「学びの技法」学生の姿勢①:　授業の予習・復習



学科による少人数授業が予習・復習に一定の効果
ただし学科による取組の差によるバラつきも

「学びの技法」学生の姿勢①：　授業の予習・復習

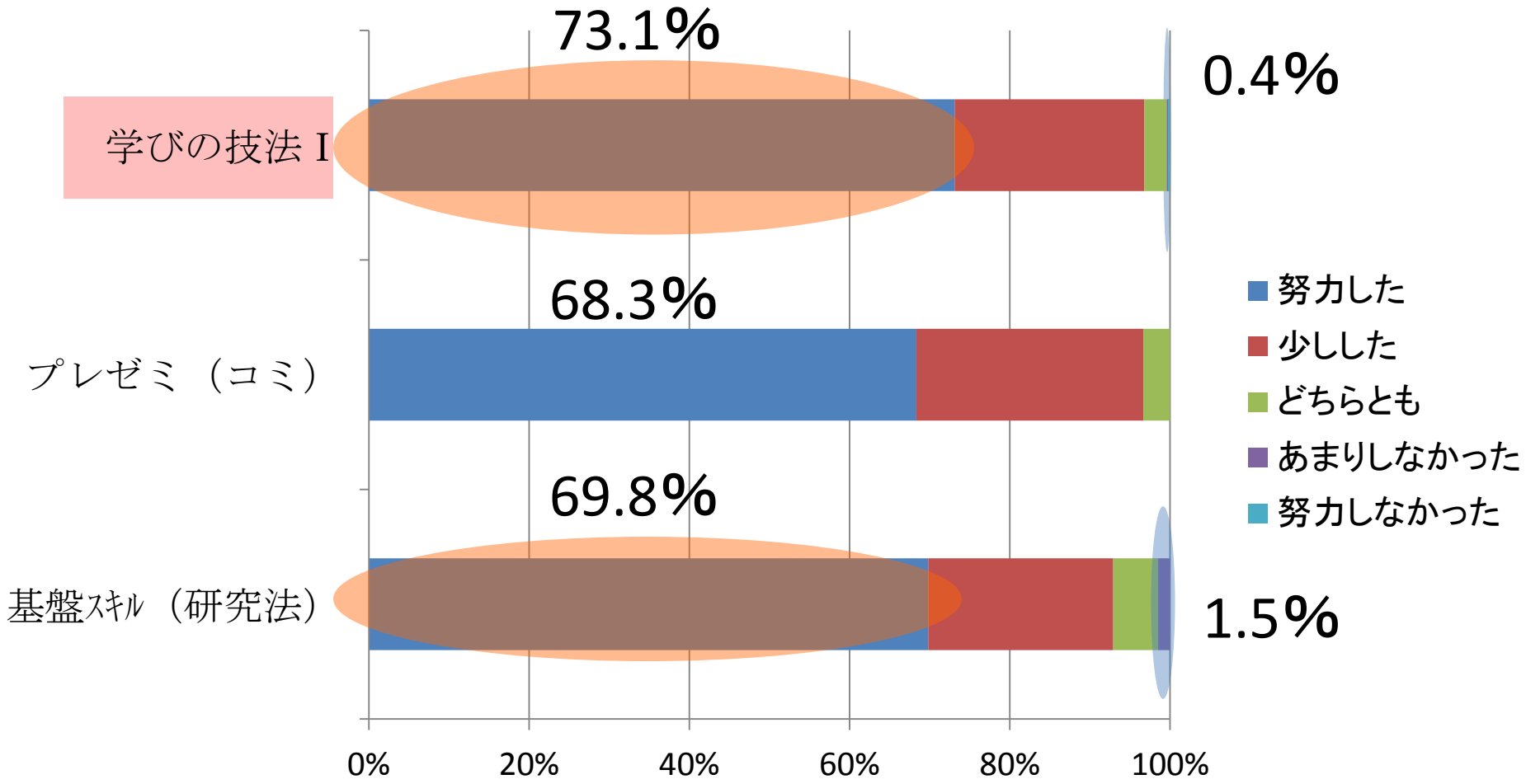
—「あまり努力しなかった」「努力しなかった」の内訳



「アルバイト」を理由に努力しない学生は減少

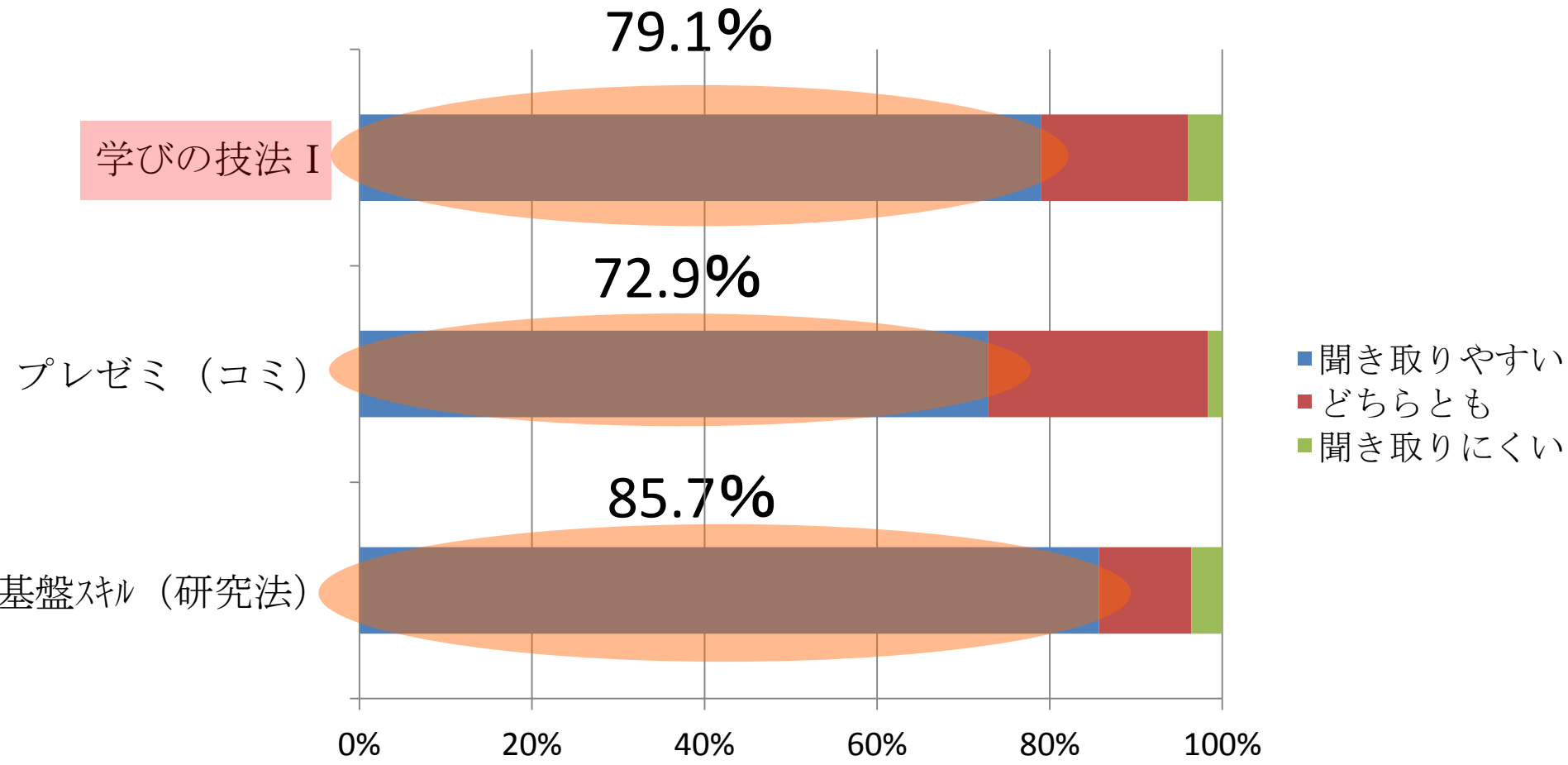
「やり方が不明」「必要を感じない」学生への対応が課題

「学びの技法」学生の姿勢②:教員の話の聞き取り



すでに多くの学生が教員の話の理解に努めているが、さらに努力する学生が増加し、努力しない学生が減少

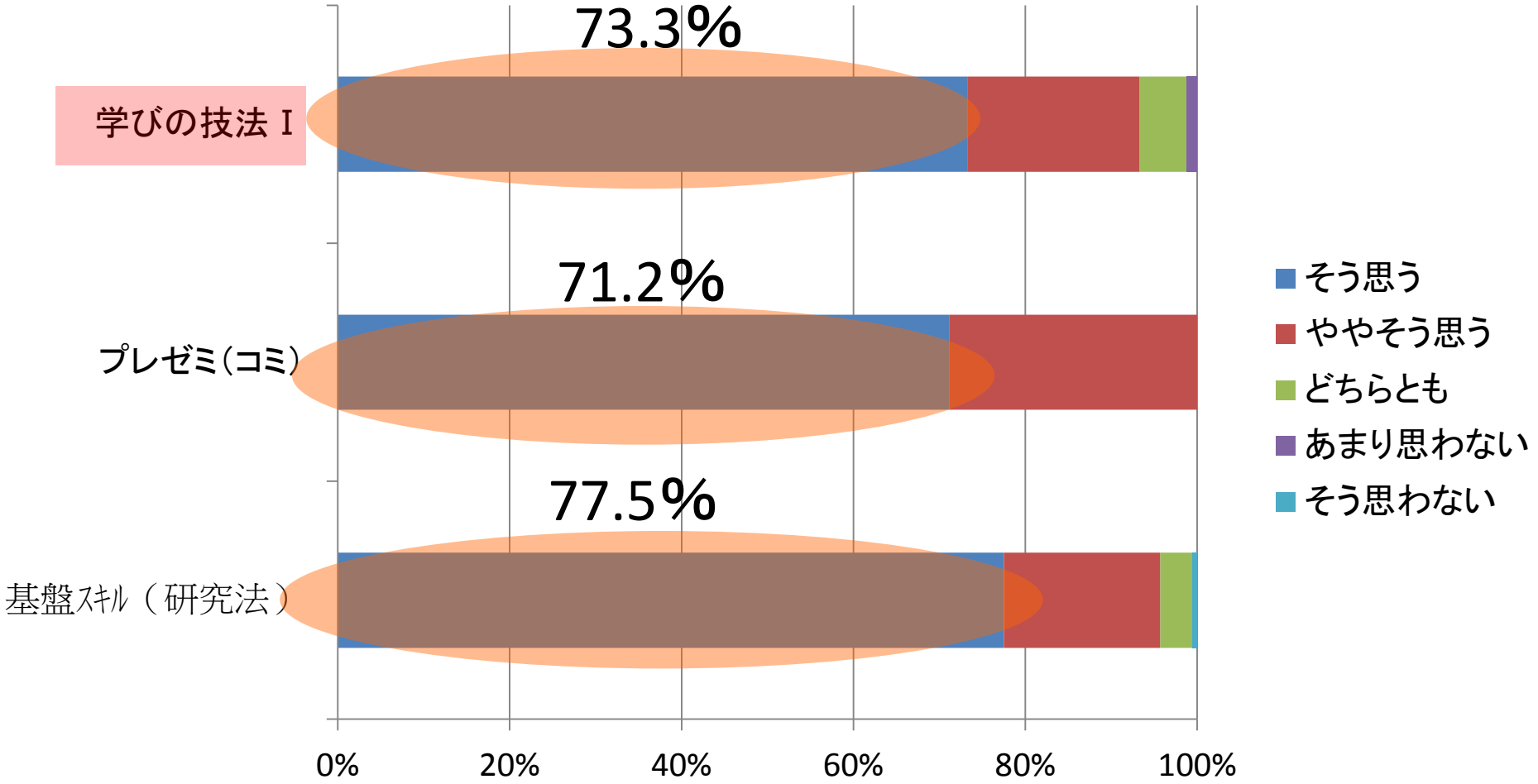
「学びの技法」授業環境①:教員の話の聞き取りやすさ



「聞き取りやすい」減少→「どちらともいえない」増加

アクティブ・ラーニング型学習活動への対応が課題

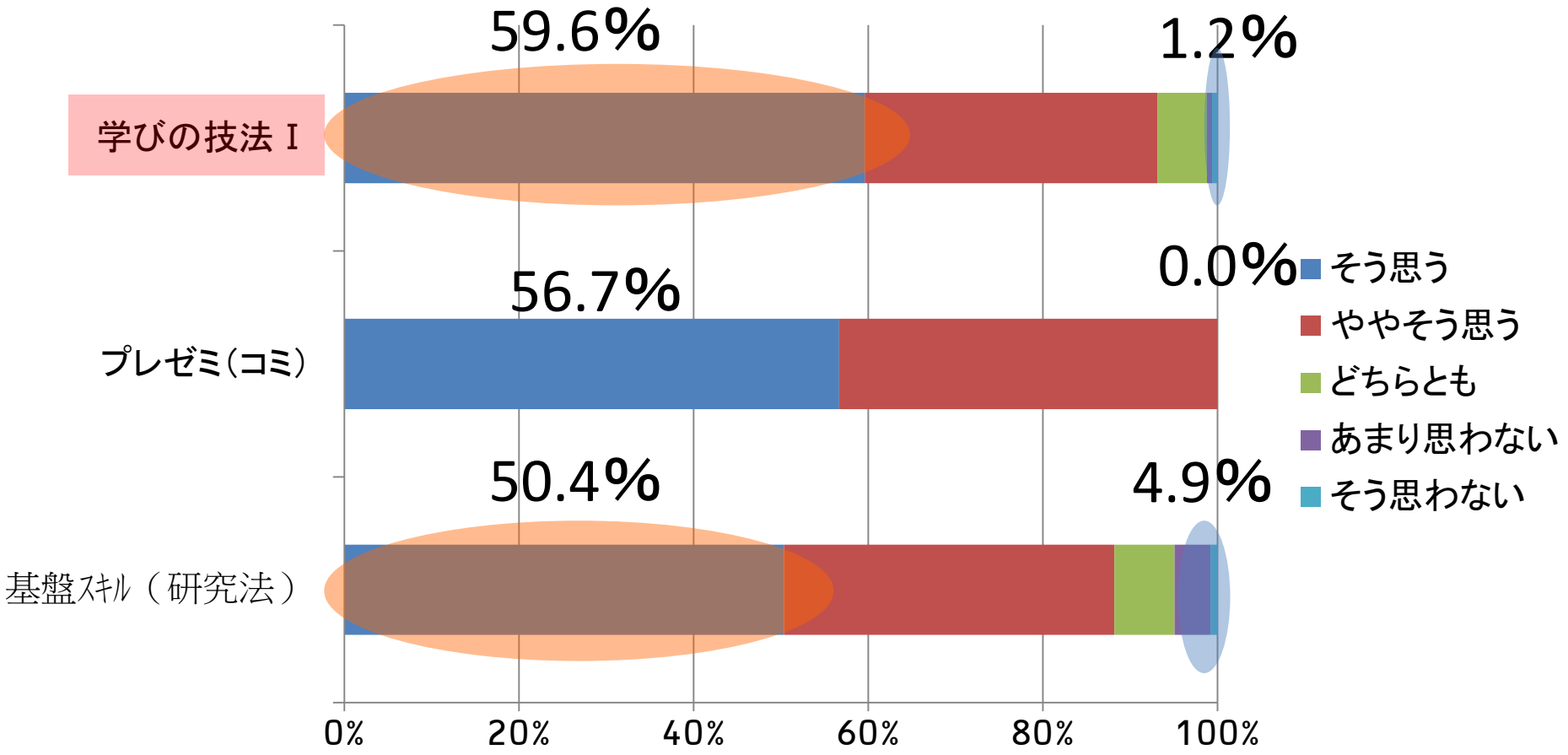
「学びの技法」授業環境②：集中できる学習環境



集中できる学習環境について「そう思う」が減少

アクティブ・ラーニング型学習活動への戸惑い？

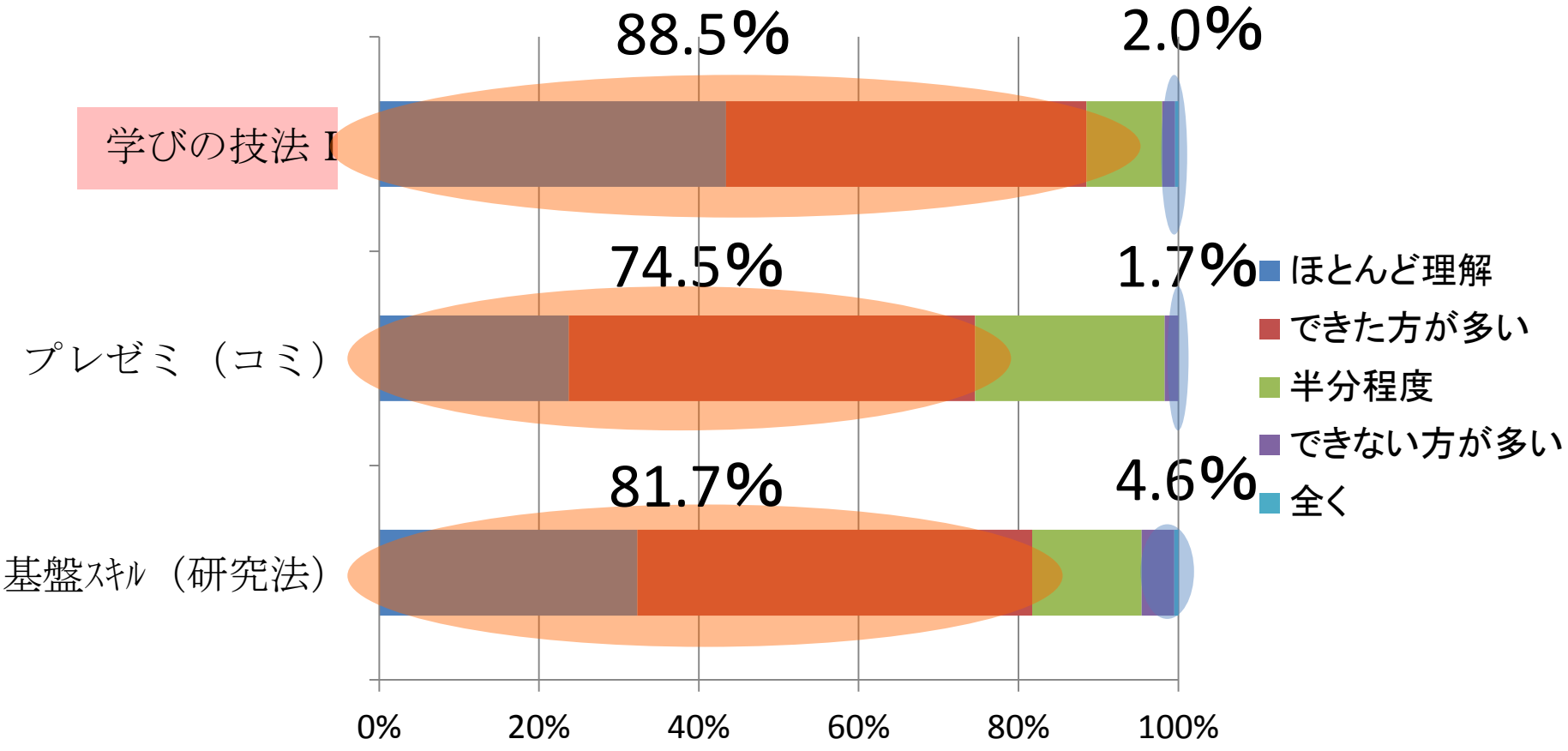
「学びの技法」到達度①：新しい知識、スキル、ものの見方



新しい知識やスキルを学べたと感じる学生は増加

学べなかったと感じる学生も減少

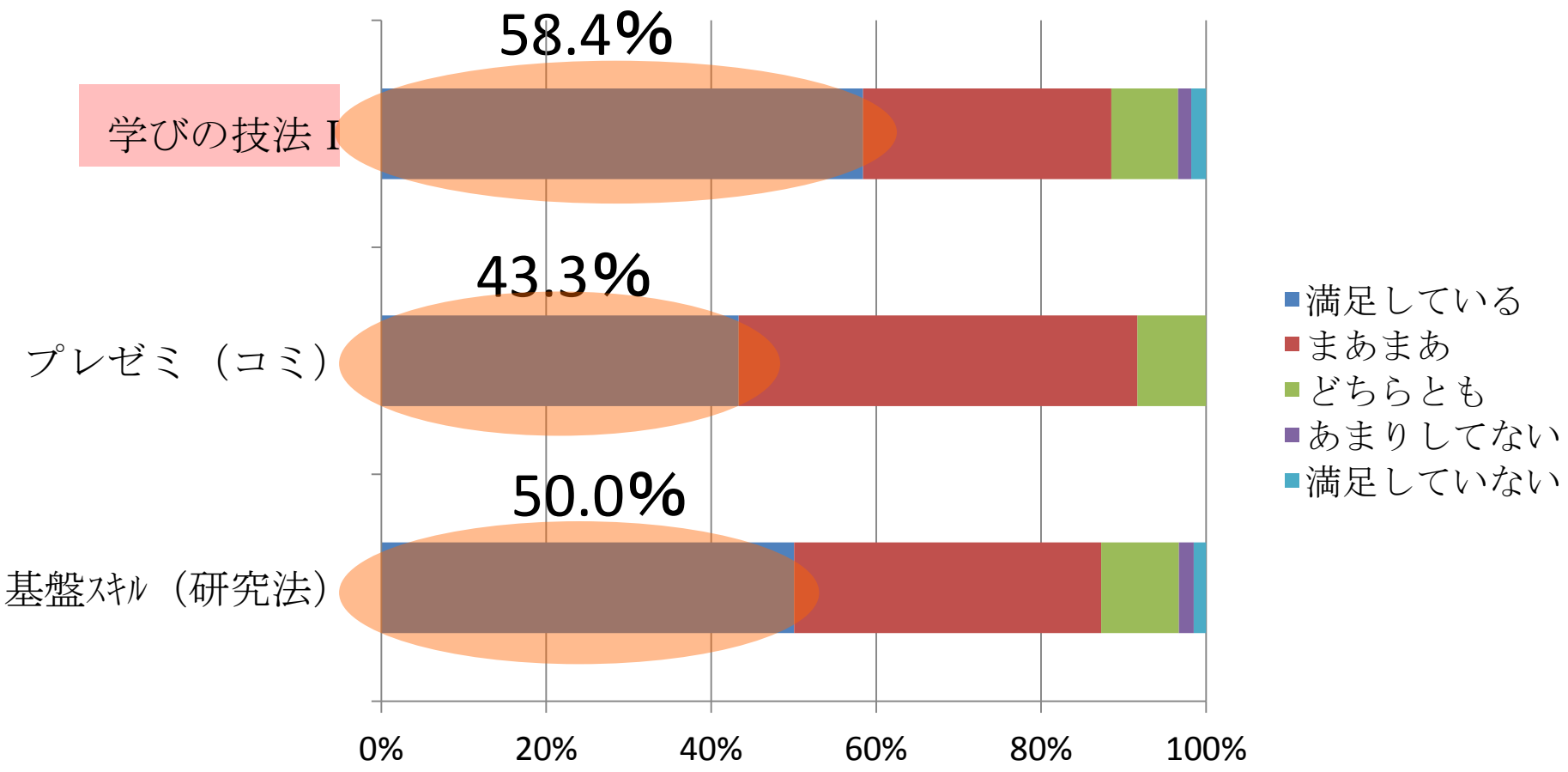
「学びの技法」到達度②:授業の内容への理解



「ほとんど理解」「理解できたほうが多い」が約9割まで増加

少人数制のためか理解できない学生も減少

「学びの技法」到達度③：総合満足度



満足層・不満足層についてはあまり変化が見られない

ただし「満足している」と回答する学生は増加

「学びの技法」の成果

- 学科教員が授業を担当することで、授業内外の学習へのモチベーションおよび満足度が高まる
  - 「アルバイト」「必要を感じない」「興味なし」を理由に予習・復習に取り組まない学生が減少
  - 総合満足度で「満足している」と回答する学生が増加

- 少人数制により多様な学生に対するフォローができるようになり、理解できないまま放置されてしまう学生が減少
  - 「やり方が不明」を理由に予習・復習に取り組まない学生が減少
  - 新しい知識・スキル等を学べなかったと回答する学生、授業内容を理解できなかったと回答する学生が減少

- 教員の話を聞き取り、理解しようと努める学生の増加

「学びの技法」の課題

- グループワークなど、アクティブ・ラーニング型授業に対する対応が不十分
  - 教員の話が「聞き取りやすい」と回答する学生が減少

- アクティブ・ラーニング型授業に対する学生の戸惑いを解消し、学習スタイルに慣れさせていくための取り組みが必要
  - 予習・復習に取り組まない理由は「やり方が不明」「必要を感じない」
  - 集中できる学習環境が維持されていると回答する学生が減少

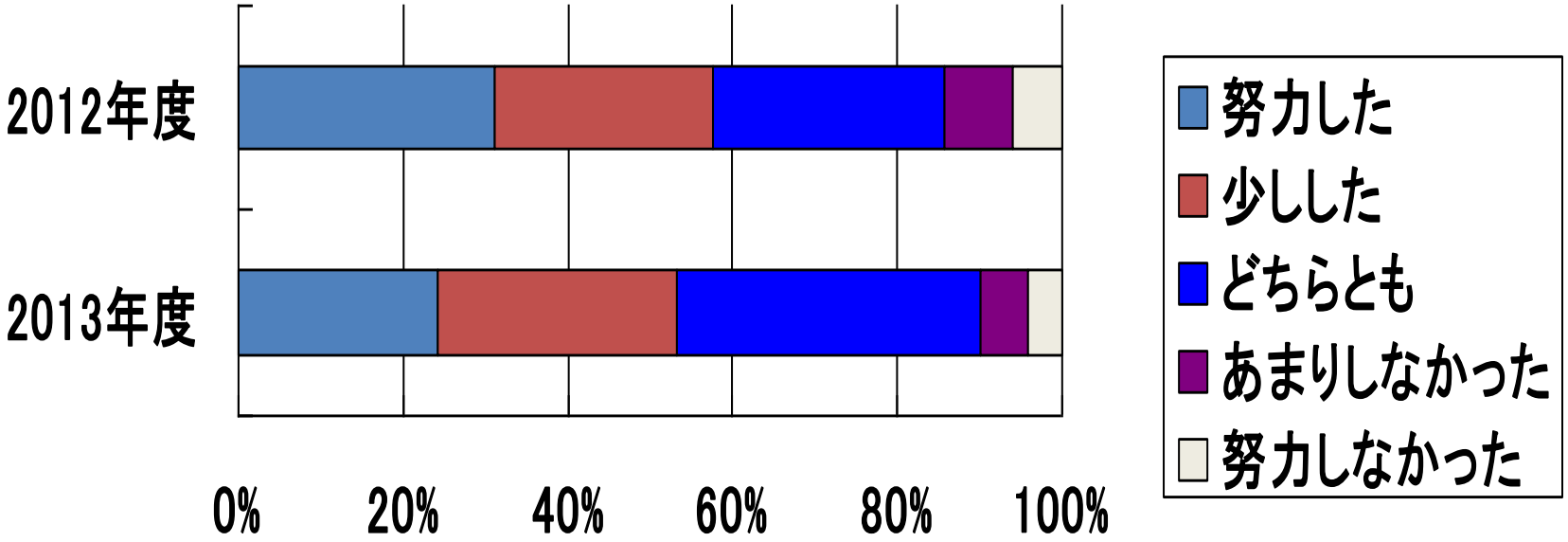
アクティブ・ラーニング型授業において、学生に教員の発言を届けるためのTIPS（コツやノウハウ）の共有、教育機材等の整備

グループワークでの発言の仕方、議論の仕方および授業外学習の方法などについて段階的に学習するための学習プログラムや、教員によるフォロー

2013年度常磐大学授業アンケート結果報告（1）

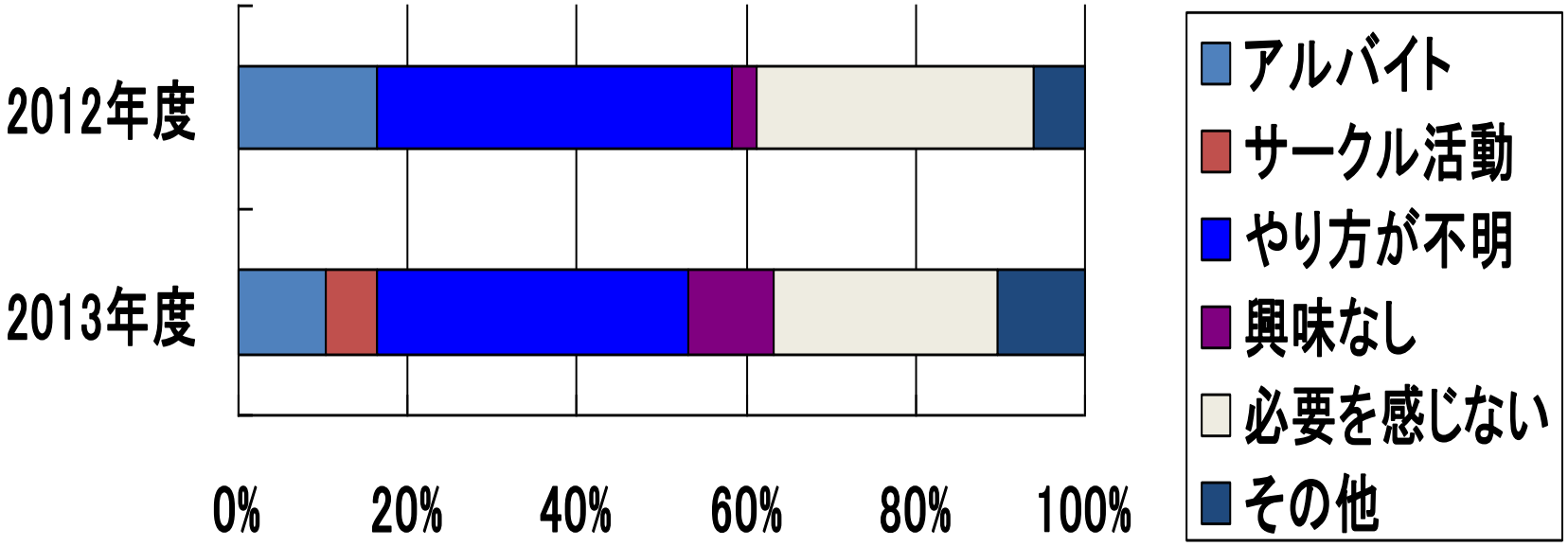
「情報処理」科目の変化

「情報処理」学生の姿勢①授業の予習・復習



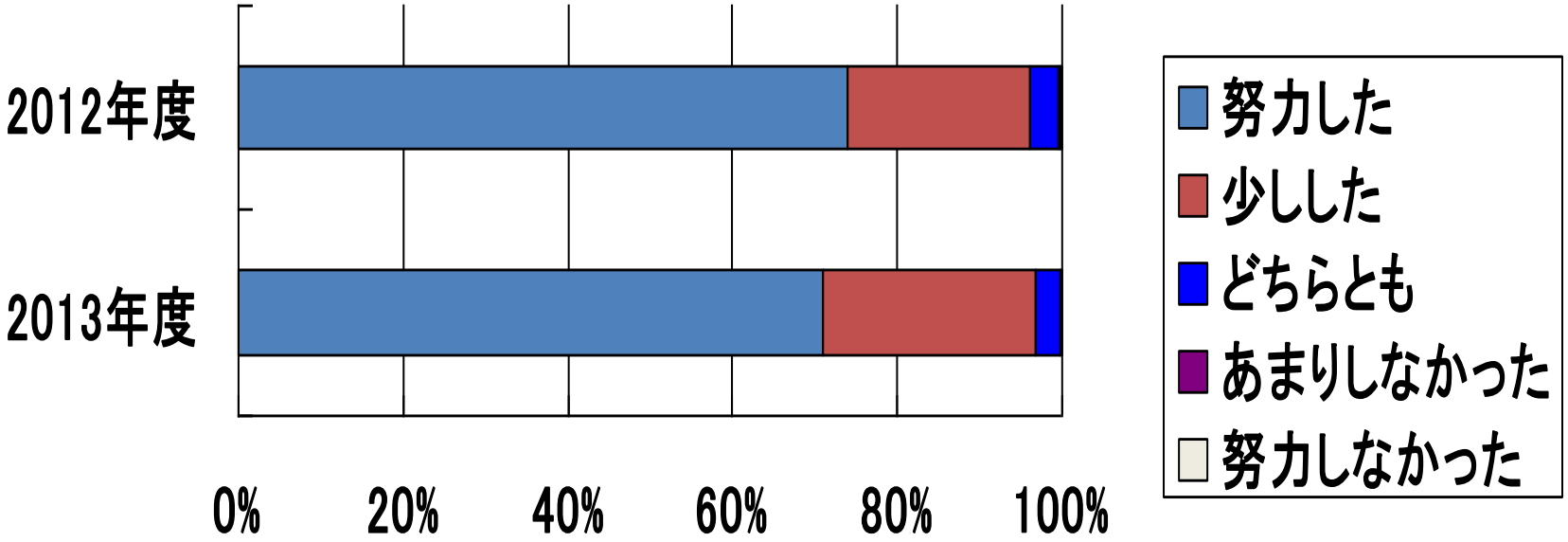
- 「どららともいえない」の層が、2013年度は大幅にアップしている。授業において予習・復習が求められているか否かなど、授業運営の仕方の変更について情報を得たうえで考察する必要がある。

「情報処理」学生の姿勢②　授業の予習・復習
—「あまり努力しなかった」「努力しなかった」の内訳



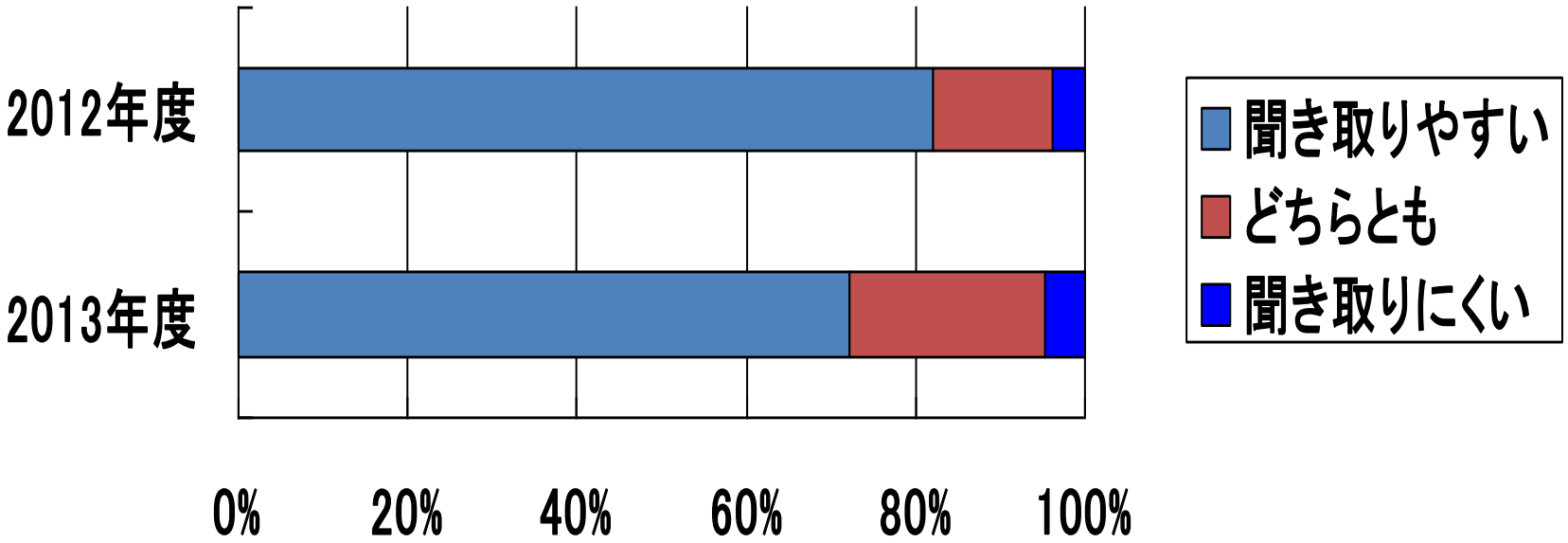
- 「必要を感じない」の割合が減少した一方で、「興味なし」の割合が大幅に増加している。

「情報処理」学生の姿勢③　教員の話しの聞き取り



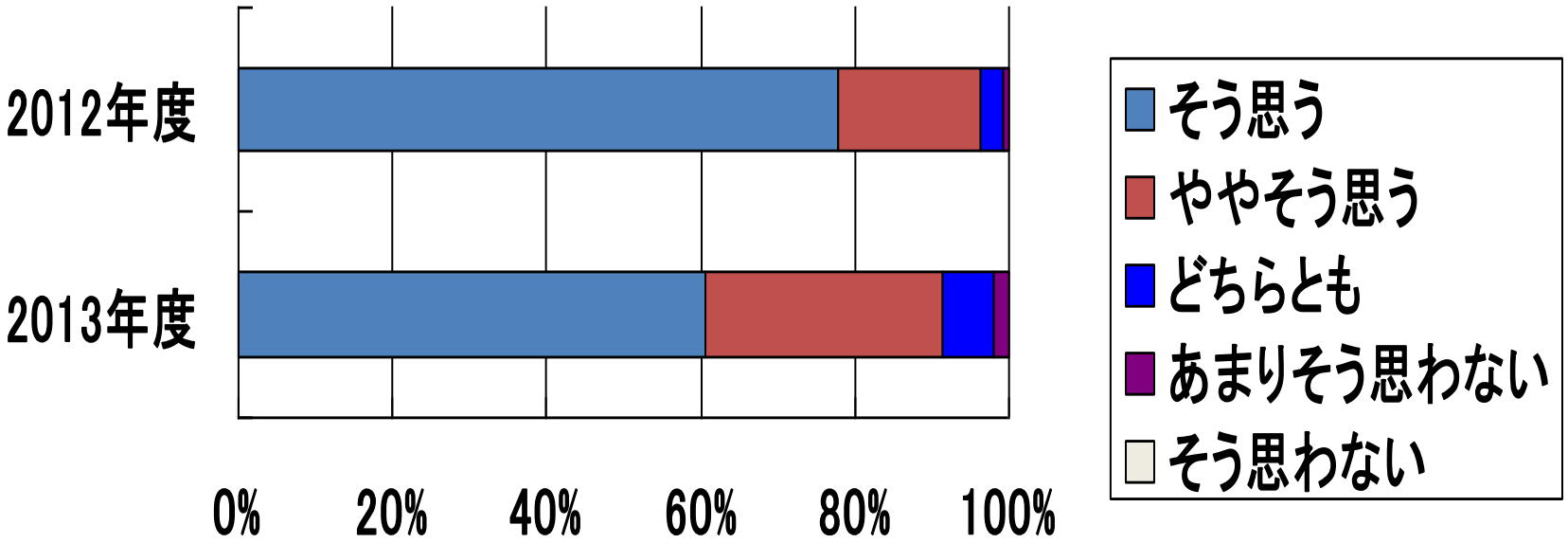
- 2012年度と2013年度とを比較して、顕著な変化は認められない。
- 授業を受ける態度・姿勢としてはデータ的には大きな課題はない。

「情報処理」授業環境①教員の話の聞き取りやすさ



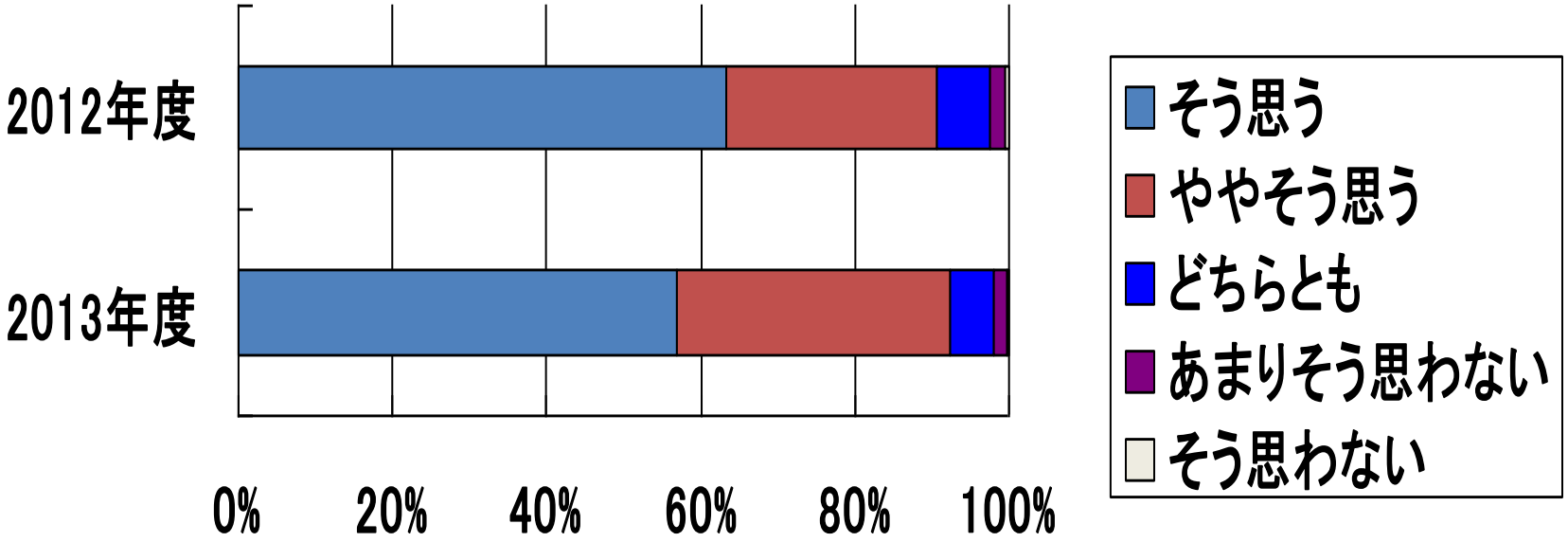
- 自己評価としての授業を受ける態度・姿勢には経年的な変化は認めにくいが、一方、2013年度は「聞き取りやすさ」が減り、「どちらともいえない」が増えているのは、個々の授業理解が十分でない傾向にあるのかもしれない。

「情報処理」授業環境②集中できる学習環境



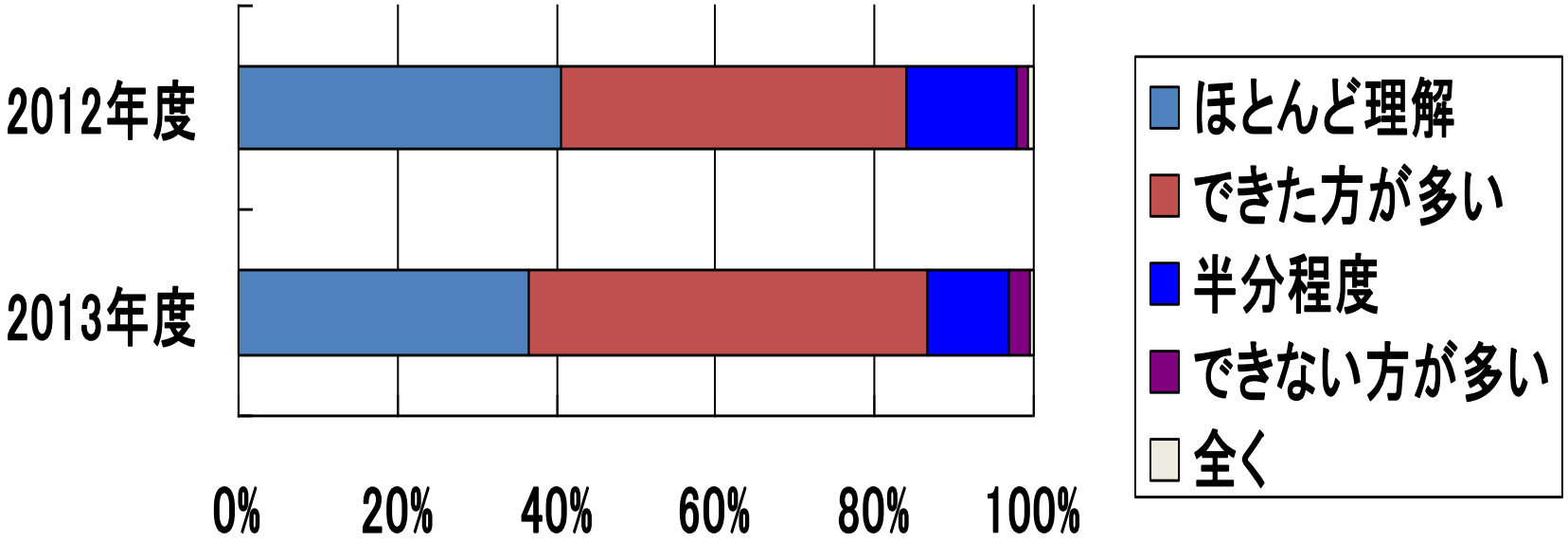
- 全体傾向と同様「そう思う」が大幅に減少し、「ややそう思う」「どちらともいえない」「あまりそう思わない」が増加している。
- 「そう思う」＋「ややそう思う」も減少している。

「情報処理」到達度①新しい知識、スキル、ものの見方



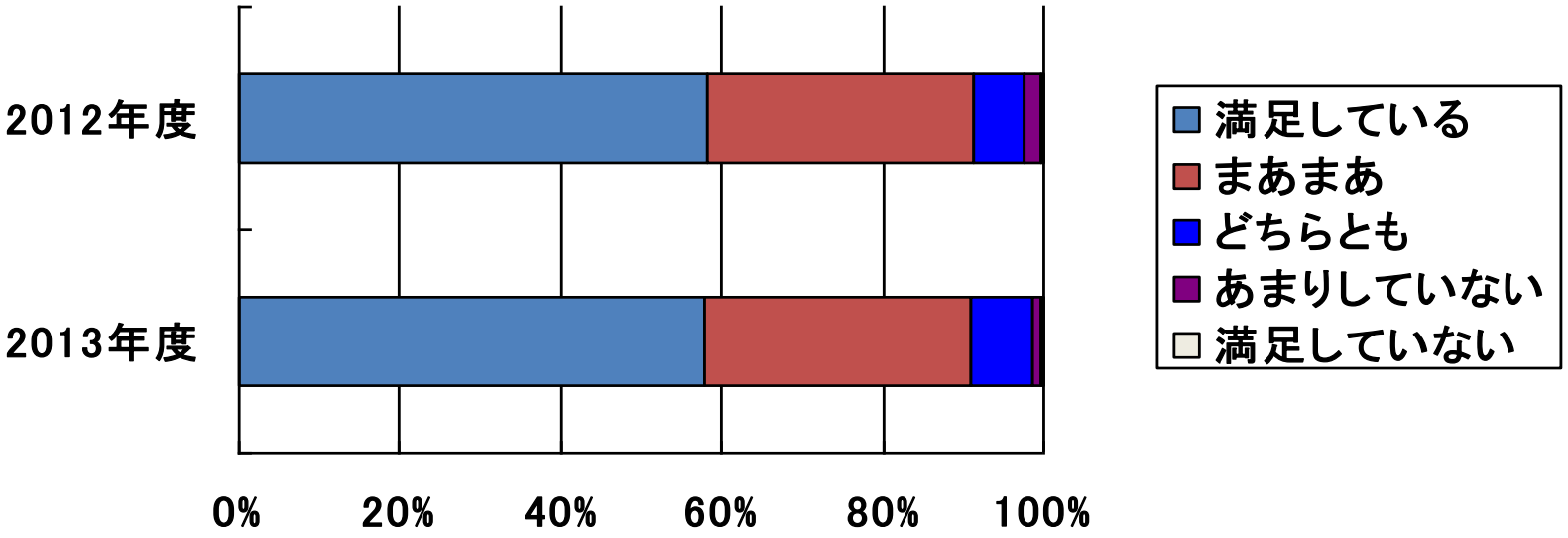
- 集中できる学習環境として、「そう思う」「ややそう思う」を合わせると、経年的な変化は認めにくいが、「そう思う」が減り、「ややそう思う」が増加している。

「情報処理」到達度②授業内容への理解



- 授業内容への理解としては、「ほとんど理解」「できた方が多い」を合わせると、両年とも8割5分程度の数値となっている。残りの1割5分程度の層をどのように評価していくかかが一つの課題である。

「情報処理」到達度③総合満足度



- 総合満足度としては、「満足している」「まあまあ」を合わせると両年とも9割程度の学生が該当する。

「情報処理」～今後の課題として～
2012年度/2013年度との比較の中で

- 学生の姿勢①　授業の予習・復習における「どちらとも」、学生の姿勢②　授業の予習・復習で「あまり努力しなかった」「努力しなかった」の内訳における「興味なし」の増加がとても気にかかる点である。

  →　学習意欲、主体性等に関連があるのかもしれない?

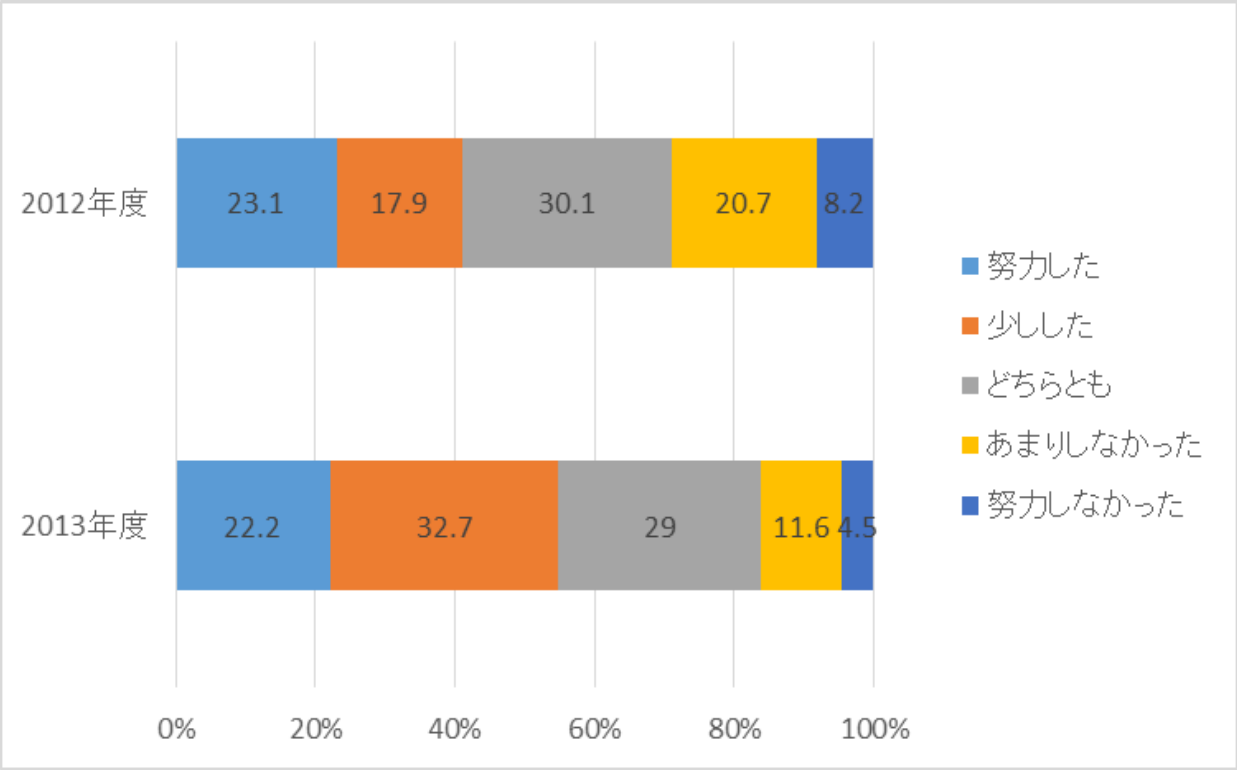
- 到達度②授業内容への理解における「理解度の高さ」、到達度③総合満足度における「総合満足度の高さ」はある程度データー的に相関していると考えていいと思われる。

  →　到達度②授業内容への理解における「聞き取りやすさ」が減り、「どちらとも」が増えていることとの関係をどのように考えればいいのだろうか。

2013年度常磐大学授業アンケート結果報告（1）

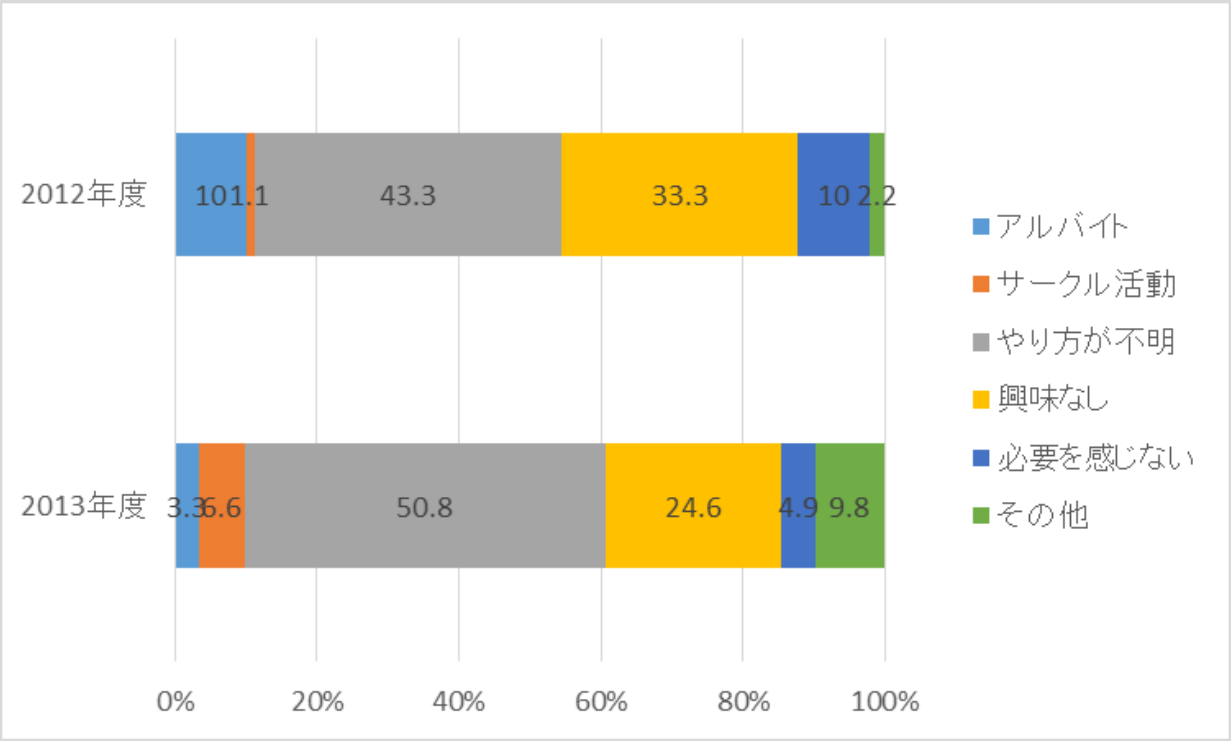
「統計」科目の変化

「統計」学生の姿勢・取り組み①授業の予習・復習



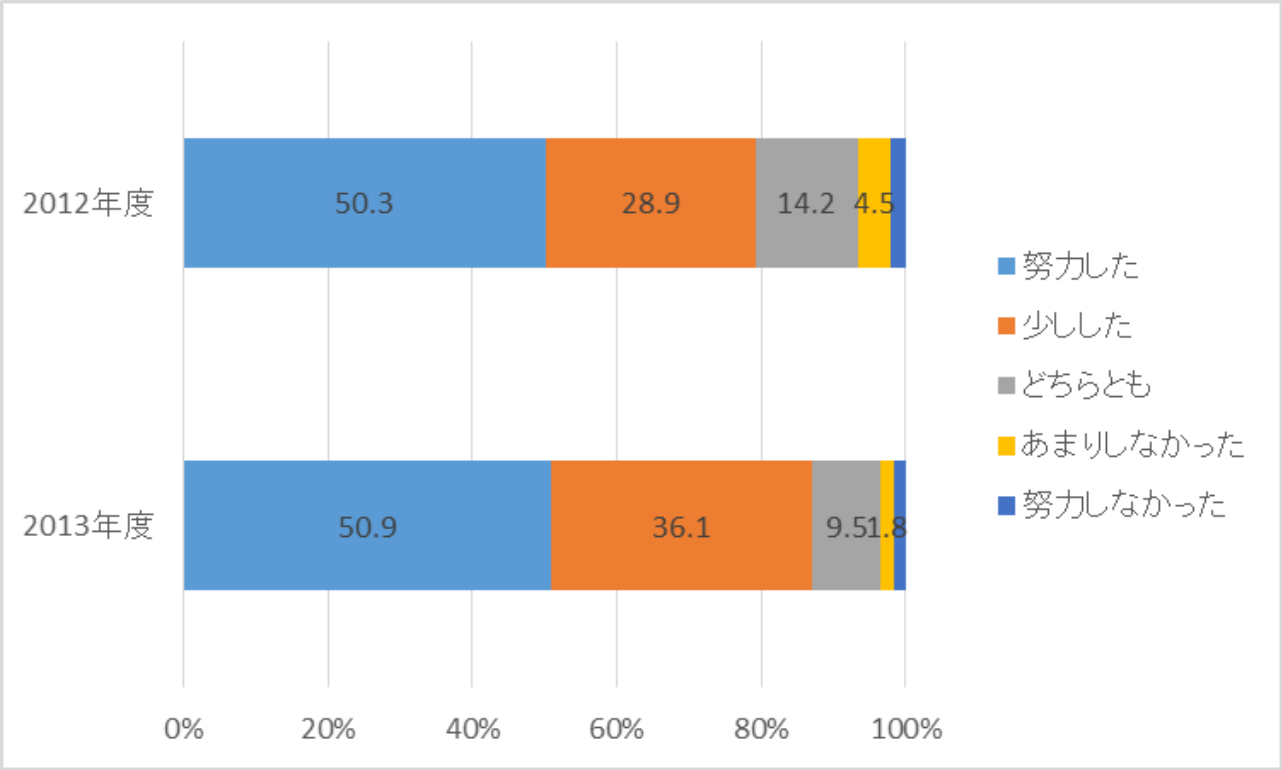
- 全体的なパタンは変わらないが，「少しした」がかなり増加。逆に「あまりしなかった」「努力しなかった」がともに減少。「努力した」ではなく，「少しした」が増加していることに注意が必要。また「努力」の実際の内容が知りたい。

「統計」学生の姿勢・取り組み②授業の予習・復習
—「あまり努力しなかった」「努力しなかった」の内訳



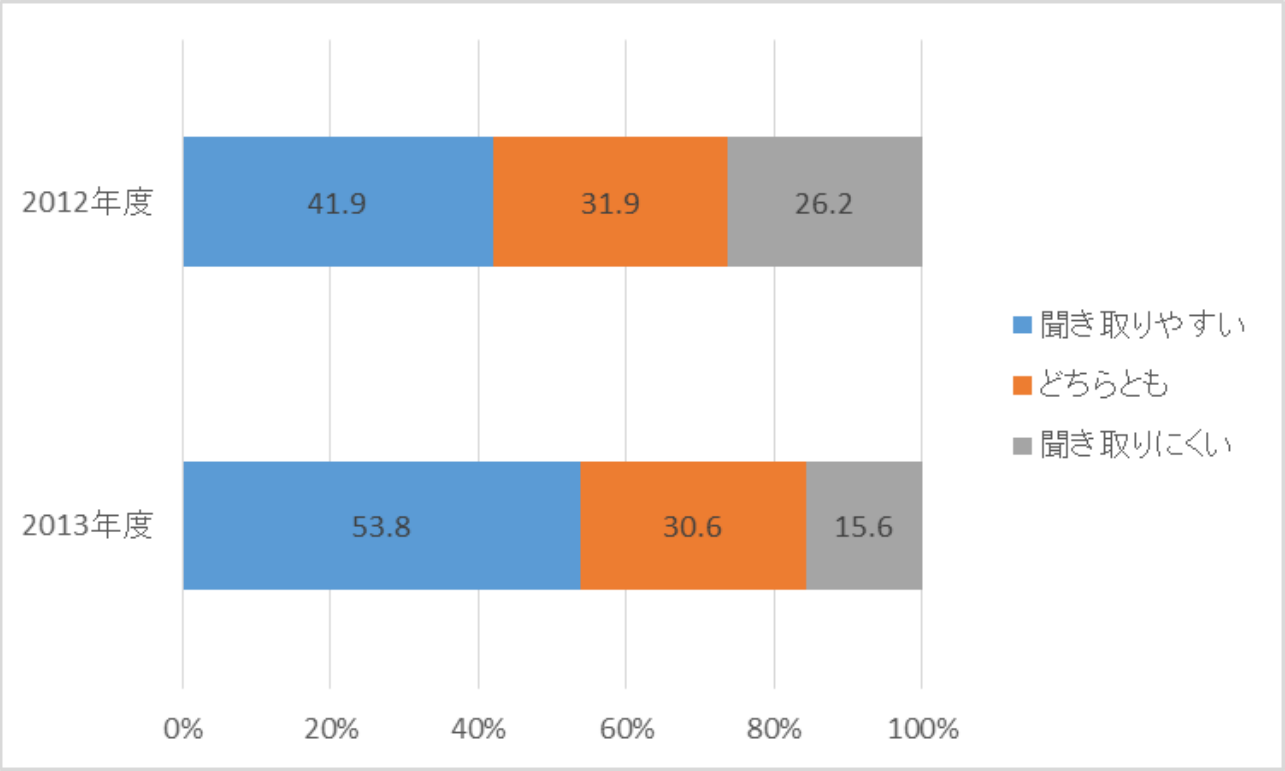
- 「やり方が不明」の割合が高く，かつ増加。やり方の指示を工夫することで改善するか？「興味なし」「必要を感じない」はやや減少。

「統計」学生の姿勢・取り組み③教員の話の聞き取り



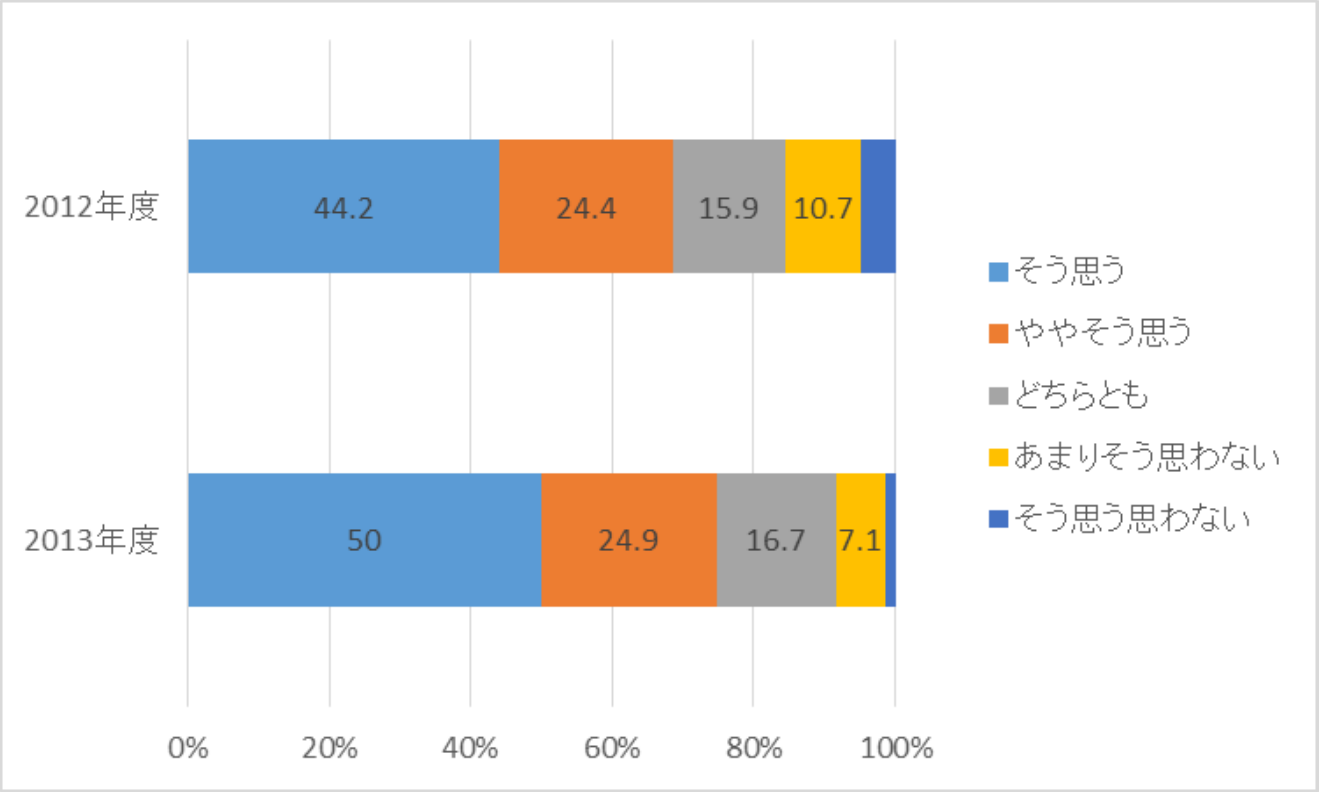
- 全体的なパタンは変わらないが，「少しした」が増加。授業を受ける態度・姿勢として若干の改善が見られる。

「統計」授業環境①教員の話の聞き取りやすさ



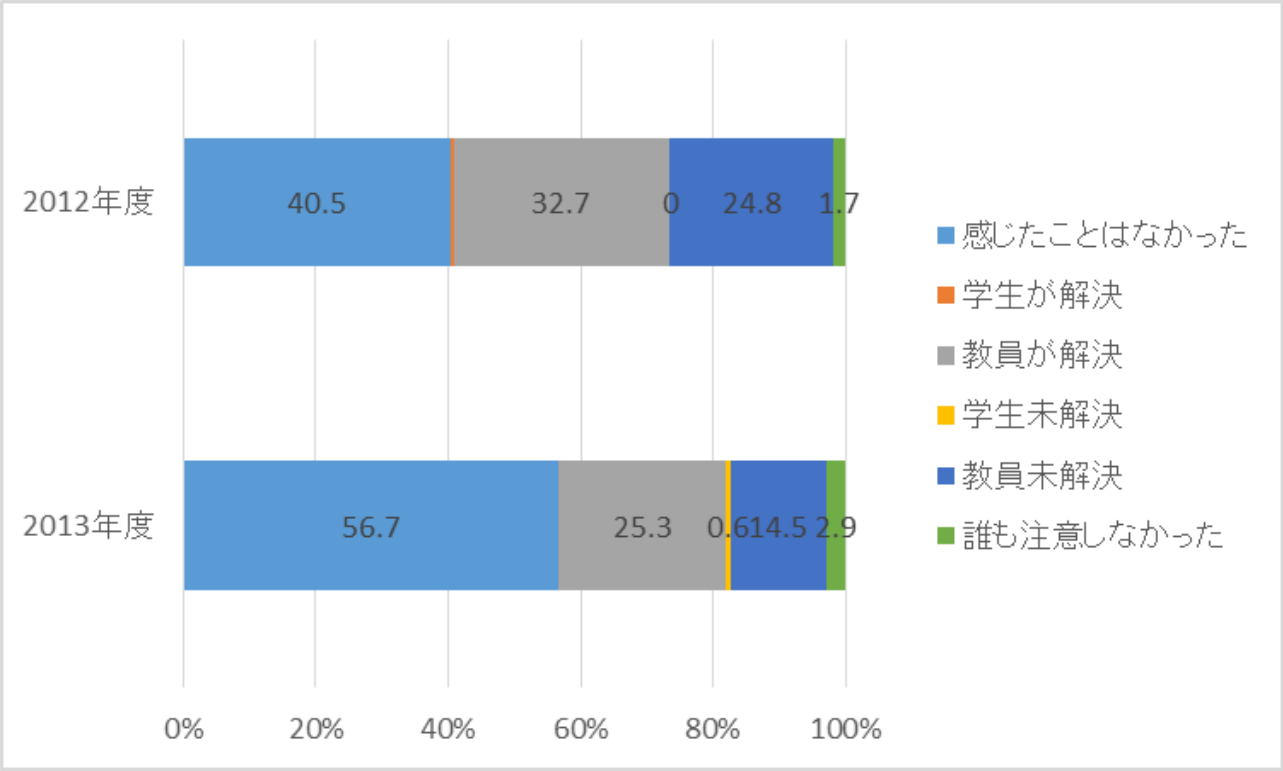
- 聞き取りやすいが10%以上増加。自己評価としての授業を受ける態度・姿勢に若干の改善が見られたこととの因果関係は明確ではない。

「統計」教員の姿勢・取り組み②集中できる学習環境



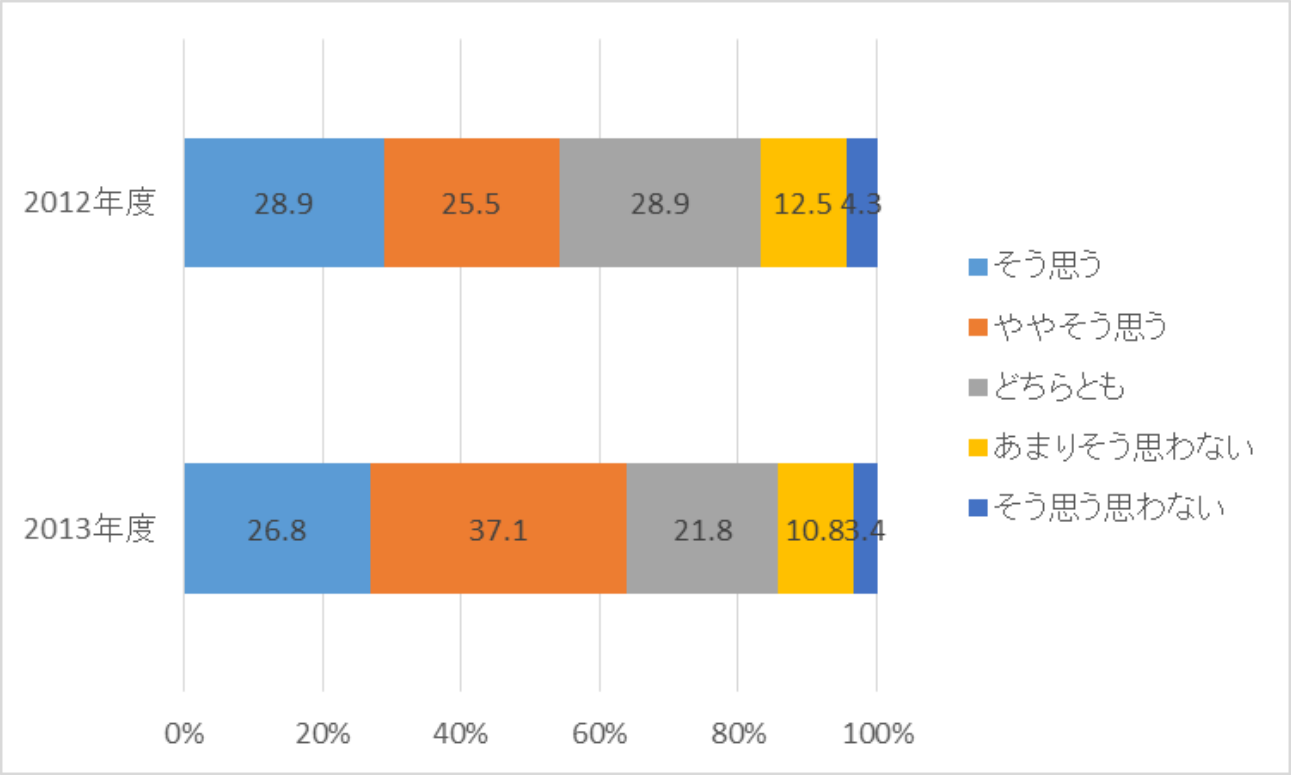
- 全体的なパタンは変わらないが,「そう思う」がやや増加。「あまりそう思わない」「そう思わない」がともに微減。この結果は教員の努力と学生の努力の相互作用と見るべきか。

「統計」授業環境③集中できる学習環境
―集中できる学習環境が維持されている/されていない理由



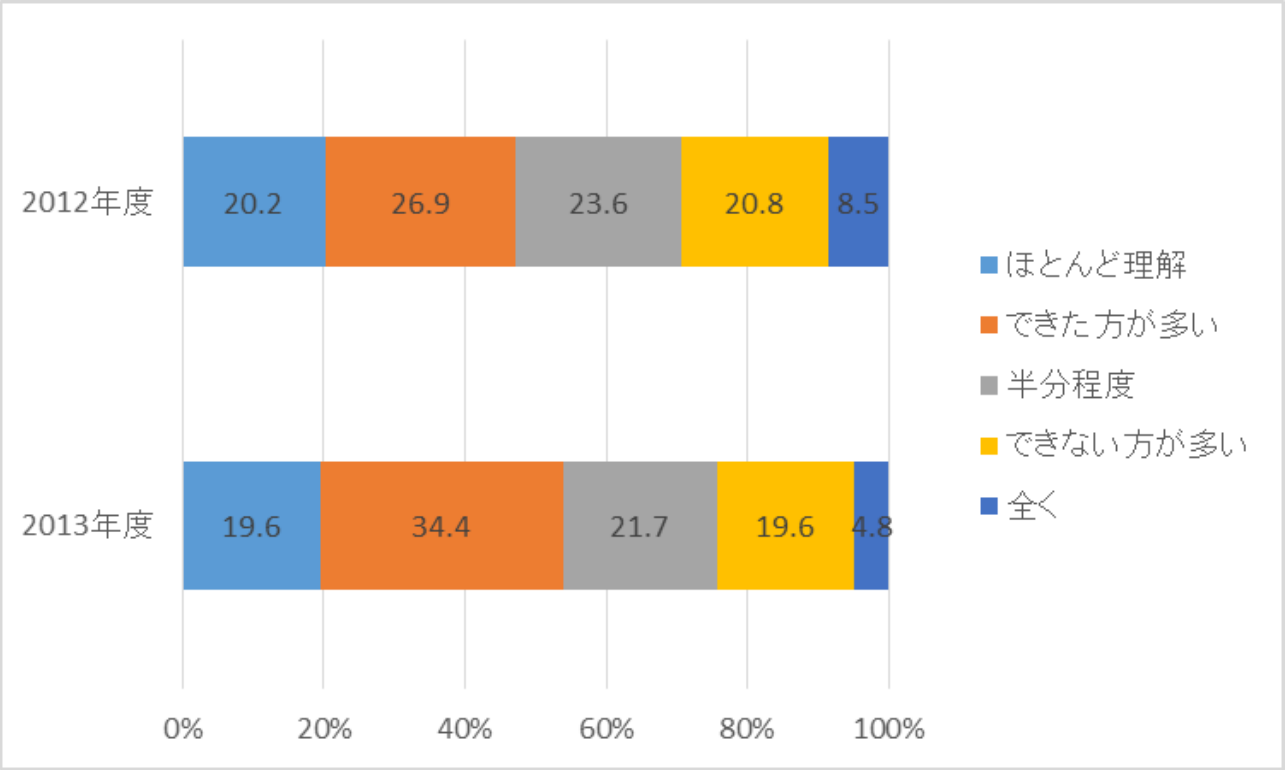
- 全体的なパタンの経年変化はない。授業環境②「集中できる学習環境の維持」で「環境が維持されていた」(＝「そう思う」「ややそう思う」)の割合が高いのは，この項目での「感じたことはなかった」と「教員が解決」の割合が高いことと関連するだろう。また，「教員が注意したが未解決」が半減しているものの，14.5%を占めることに目を向けるべきか。

「統計」到達度①新しい知識、スキル、ものの見方



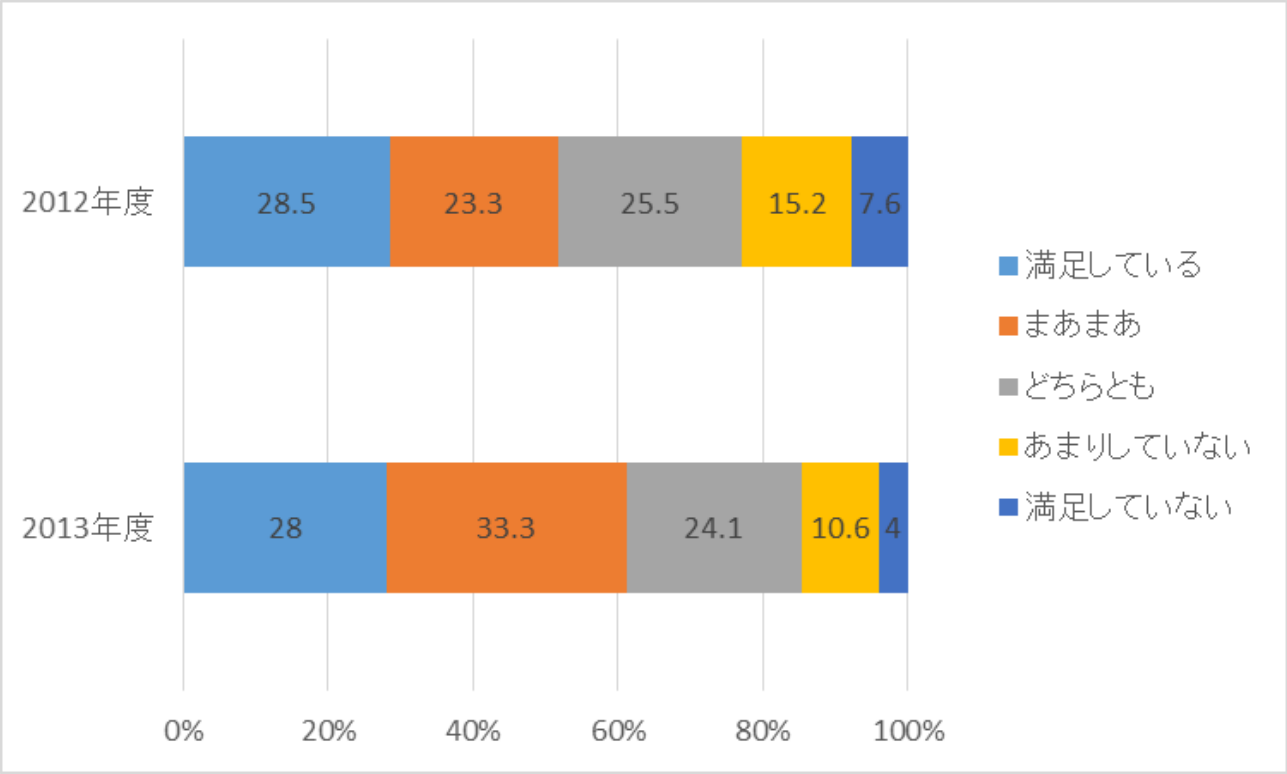
- 全体的なパタンは変わらないが,「ややそう思う」が10%以上増加。

「統計」到達度②授業内容への理解



- 全体的なパタンは変わらないが,「できた方が多い」が増加している。

「統計」到達度③総合満足度



- 全体的なパタンは変わらないが,「まあまあ」が10%増加。また「あまりしていない」がやや減少。「満足していない」は半減（実数にして25名→15名）。

「統計」
2012年度/2013年度の比較のまとめ①

1　学生の姿勢・取り組み

①　全体的なパタンの経年変化はないが，予習・復習も教員の話を聞き取る努力も向上している。

②　予習・復習については，「やり方が不明」の割合が高く、増加している（43.3%→50.8%）。やり方の指示の現状の分析を含む検討が必要と考えられる。

「統計」
2012年度/2013年度の比較のまとめ②

2　教員の授業に対する姿勢・取り組み

①　「教員の話し方」では，「聞き取りやすい」が10%以上増加している。この項目では，「聞き取りやすい」と「どちらともいえない」を合わせた割合が，教員のパフォーマンスが一定の（充分な）レベルに達していることを示していると考えられる。この値の経年変化は73.8%→84.4%であり，充分なレベルであると考えられる。

「統計」
2012年度/2013年度の比較のまとめ③

2　教員の授業に対する姿勢・取り組み

②　学生が授業に集中できるような授業環境の維持については，全体的なパタンの経年変化はない。「環境が維持されていた」（＝「そう思う」「ややそう思う」）の割合が高いのは，理由を問う項目での「感じたことはなかった」と「教員が解決」の割合が高いことと関連すると考えられる。

　また，「教員が注意したが未解決」が半減しているものの14.5%を占めることは検討すべき事柄であると考えられる。

「統計」
2012年度/2013年度の比較のまとめ④

3　到達度

①　到達度の下位項目である「新しい知識やスキル，新しいものの見方を学べたか」「授業内容を理解できたか」「総合的に考えて満足しているか」は，すべて同様のパタンを示し，経年変化も少ない。

　それぞれ尺度の最上位はほとんど変化がないか微減であるが，上位から2番目は，すべて顕著な増加が見られる。

②　下位項目間の相関の解析が必要と考えられる。